

平成28年第3回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成28年9月5日(月曜日)

議事日程第3号

平成28年9月5日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 19名

出席議員 19名

1番	吉川慶一君	2番	笠原幸江君
3番	斉木勇君	4番	渡辺重雄君
5番	倉又稔君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	中村実君	10番	大滝豊君
11番	高澤公君	12番	伊藤文博君
13番	田原実君	15番	吉岡静夫君
16番	新保峰孝君	17番	五十嵐健一郎君
18番	松尾徹郎君	19番	樋口英一君
20番	古畑浩一君		

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

+

市	長	米田	徹	君	副	市	長	織田	義夫	君
総務部	長	金子	裕彦	君	市民部	長	兼務	岩崎	良之	君
産業部	長	斉藤	隆一	君	会計課	長	兼務	山本	将世	君
企画財政課	長	藤田	年明	君	総務課	長		斉藤	喜代志	君
能生事務所	長	原	郁夫	君	定住促進課	長		井川	賢一	君
市民課	長	池田	正吾	君	青海事務所	長		五十嵐	久英	君
福祉事務所	長	水嶋	丈明	君	環境生活課	長		横澤	幸子	君
交流観光課	長	渡辺	成剛	君	健康増進課	長		斉藤	孝	君
建設課	長	見辺	太	君	商工農林水産課	長		丸山	幸三	君
ガス水道局	長	木村	清	君	会計課	長		大滝	正史	君
教育	長	田原	秀夫	君	消防	長		佐々木	繁雄	君
教育委員会	子ども教育課	長	山本	修	教育次	長		渡辺	孝志	君
					教育委員会	子ども課	長			
					教育委員会	生涯学習課	長			
					中央公民館	長	兼務			
					市民図書館	長	兼務			
教育委員会	文化振興課	長	磯野	茂	監査委員	事務局	長	大嶋	利幸	君
歴史民俗資料館	長	兼務								
長者ヶ原考古館	長	兼務								

事務局出席職員

+

+

局	長	小竹	和雄	君	次	長	松木	靖	君
係	長	室橋	淳次	君					

午前10時00分 開議

議長（倉又 稔君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（倉又 稔君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、2番、笠原幸江議員、20番、古畑浩一議員を指名いたします。

+

日程第2 . 一 般 質 問

議長（倉又 稔君）

日程第2、一般質問を行います。

2日に引き続き、通告順に発言を許します。

田中 立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中 立一君登壇〕

7番（田中 立一君）

おはようございます。

市民ネット21、田中 立一でございます。

発言通告に基づいて、1回目の質問をいたします。

1、匠の里プロジェクトについて。

系魚川ジオパーク匠の里創生事業「匠の里プロジェクト事業」が始まりました。8月31日まで、4組の手作り工芸作家の家族を募集しています。ワークインレジデンスの1つの形態として、移住と交流人口の拡大が期待できる事業と思いますが、現在の申し込み状況と今後の取り組みについて考えを伺います。

(1) 申し込み状況と支援策について。

(2) 交流人口拡大への活用など今後の展開について。

2、有害鳥獣対策について。

(1) 有害鳥獣による農作物の被害が年々深刻さを増してきていますが、今年の秋は特に熊が人に大量出没することが予想され、市民も不安に思っています。

加えてイノシシも人家周辺に現れるようになり、熊と共に人的被害が発生しないよう対策が求められています。

今年の有害鳥獣の出没状況と被害、対策について伺います。

(2) 女性ハンターについて。

有害鳥獣の被害がふえる一因に猟友会員の高齢化、減少が挙げられますが、一方で女性ハンター、いわゆる「狩りガール」が急増している話も聞きます。

当市における猟友会の現状と女性ハンターをふやすことへの考えについて伺います。

3、耕作放棄地の課税強化について。

(1) 平成29年度から予定されている耕作放棄地に対する課税強化について、農家の間で戸惑いの声が聞かれます。

政策の内容と取り組みについて伺います。

(2) 農地の集積が目的ですが、当市の集積状況について伺います。

4、権現荘の経営計画について。

権現荘がリニューアルされて1年が経過しましたが、当初予定された収支に届かず、経営計画の

見直しも行われました。

経営計画について取り組み状況と今後の対応を伺います。

(1) 利用者及び収入増に向けた取り組みについて。

収支状況と今後の見通しについて。

10月以降の支配人について。

インバウンド誘客の取り組みについて。

宿直に使われた客室はじめ権現荘の修繕予定について。

(2) 経費節減の取り組みについて。

食材、飲料、売店の原価率について。

残業時間の軽減について。

(3) 温泉センター統合の検証について。

以上、1回目の質問を終わります。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ほぼ移住の意向を固めていただいている方が2組4名、そのほかに調整を進めている方が3組5名であります。移住の暁には、住宅の改修を施した後、家賃及び光熱費の3年間で補助とし、初年度の作品制作委託を行うことといたしております。

2点目につきましては、移住者ならではの視点でまちづくりに参画をしていただき、地域の活性化を図るとともに地元の工芸作家等と連携をいたしまして、イベントの開催などによりまして交流人口拡大につなげていきたいと考えております。

2番目の1点目につきましては、当市においてもツキノワグマの目撃情報は、前年度を上回っており、また、イノシシも春から民家近くで目撃をされております。今後も猟友会の協力を得て駆除活動を継続していくとともに、広く広報で呼びかけ、被害防止に努めてまいります。

2点目につきましては、市内猟友会における女性会員は1名ですが、今後も狩猟免許や猟銃所持に係る費用を補助するなど、女性ハンターを含めた若手の猟友会員の増加に努めてまいります。

3番目の1点目につきましては、農振地域内の利用可能な遊休農地について、農業委員会が農地所有者に対し、意向調査を行った上で勧告した場合、課税が強化されるものであります。

2点目につきましては、28年度当初の農地集積率は42.9%となっております。

4番目の1点目の1つ目につきましては、リニューアル後の昨年8月から1年間の収支では、約400万円の黒字となっておりますが、28年度上半期の実績を見た上で年間収支の見直しを行いたいと考えております。

2つ目につきましては、現在、検討中であります。

3つ目につきましては、シャルマン火打スキー場や観光協会と連携した中で進めてまいります。

4つ目につきましては、現在、防音工事の費用を調査中であり、その結果を受けて判断をさせていただきます。

2点目の1つ目につきましては、食材料の原価率は7月末で43.9%であり、売店は74.3%であります。

2つ目につきましては、6月までに3名の職員を採用し、時間外勤務の削減に努めております。

3点目につきましては、昨年8月以降の日帰り入浴者数については、旧温泉センターを合わせた利用者数より2割以上増加いたしております。

また、収支につきましては、発生をいたしました旧温泉センターへの赤字繰り入れ分約900万円が権現荘の会計の中で補填されております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

まず、匠の里プロジェクトであります。

既に、手や職や技術を持っている手づくり工芸作家、当地に招くということで、以前から提唱しておりますワーク・イン・レジデンスあるいはアーティスト・イン・レジデンスと通じるころがあって、移住促進策として、また空き家対策、さらに交流人口の拡大にもつながる事業として非常に期待をしております。

ただ、うまくいってほしいのですが、募集のチラシや市のホームページを見ただけでは、このプロジェクトはどういう目的があって、なぜ工芸作家なのか、なぜ根知なのか、今後どう展開していくかストーリー性が見えにくいため唐突に出てきた印象も正直、持っております。

また、家族が移住するということになりますと、子育てや医療、教育、福祉、地域の生活習慣など多岐にわたるケアが必要になります。それをどのようにしていくのか。入る前のいい話ばかりでなくて長い目で取り組む覚悟がないと難しいところがあり、失敗する懸念もありますので、少し詳しくアウトラインを伺いたいと思います。

まず、先ほどの答弁では、2組4名が決まって、さらに3組5名と予想を上回る、予定よりも上回る数が、今、申し込み状況にあるわけですけれども。申し込みの問い合わせ状況等合わせて、その辺はどのようになっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

おはようございます。

今ほどのご質問にお答えいたします。

問い合わせ状況ということでございましたが、基本的には我々のほうに電話で問い合わせずとかというのは、本当に数件というような状況です。今回、やはりいろいろ今お話をさせていただいている

方たちについては、いろんなデザインフェスタとかそういったところでお声がけさせていただいたり、そういった方からのつながりというような形になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今、決まった2組というのは、どういう種類の工芸をされる予定の方ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

2組の方につきましては、1組の方は絵描きさんであります。もう1組は、フラワーアレンジメントを主としている方たちという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

当初、4家族の募集をしているわけですが、今、それよりも多い数が、これから選考するのでしょうか。それとも全部、受け入れていく予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

申込期限が8月31日でしたので、そこを一つの基準として判断をしてみたいと思います。

ただ、全体の予算の中でおさまれば、できるだけ多くの方に来ていただければ効果があるかと考えておりますので、その辺は今後、また庁内で相談しながら進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

予算上の大きなウエートを占めるのは、空き家の改修かなというふうに察しているんですけども、空き家の改修についての上限とか条件とかそういったものは、どのようになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

空き家の改修につきましては、基本的に水回り等の生活面で最低限確保しなきゃいけないものに

については、市のほうで、この事業として改修をさせていただくと。ほか、要は移住を希望される方が自分の工房とかということでどんなふうにしたいかというようなことがあれば、DIYということですが、自分で材料を買ってきてやるなりそういった形で改修していくと。これらについては、我々、今、空き家のほうの持ち主さんと相談しながら、DIYも認めてくださいというような形の中で空き家の選定をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

予算上で1件当たりの上限とかそういったのを聞きたいんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

予算上は、おおむね175万円の4カ所で700万という総額の枠で考えております。

ただ、建物の状況等によって、この辺は少し流動的で、余分があればほかへ回すとかといったことも可能ではないかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この募集の仕方ですけれども、チラシは見てますし、ホームページなんですけど、具体的にどういう募集の仕方をされてこられましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

募集方法ですが、ホームページに載つけた以外では、移住者を対象としてる雑誌、それから、今回は陶芸等の趣味の方の雑誌とかあるんですけど、そちらのほうへ記事なり募集要項ということで掲載をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

市としては、このプロジェクトをするに当たって、どういうクラフト作家が来てほしいとか、そういう考えはあって臨んでいるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

基本的には、自分のなりわいとして工芸とかで、自分の、要は技術で物をつくったりして、それを販売するというようなことで生計を立てられる方という定義でありまして、特にどの分野というふうには限らないであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今後なんですけれども、ことしは4家族を募集して、今後は、またさらに広げて一つの根知なら根知地区で工芸の人を多く集めてという、そういう考えはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

今回は、根知地区を一つの導入地区として対象を絞って募集をかけているところです。今後も根知地区への導入というのを図っていきたいとは思いますが、ただ、根知だけではなくて、ほかの地区についても、これが匠になっていくかどうかというあたりが、またその各地区及び集落等との話になると思いますが、ターゲットを絞って、どんな人に来てもらいたんだというターゲットを絞って移住促進を図っていくということは進めていきたいですし、今回の匠の件につきましては、こういった、要はなりわいとしては自分で持っておられる方がこちらへ来ていただくということですので、ほかにもまだ広くエリアを今度は広げていって、イベント等についても横展開でいろいろと各地区ごとに連携できたり、あと町場のほうでいろんなイベントができたりといったことで交流人口の拡大とか、そういったものにもつながっていけばいいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ということは、根知に限らず市内いろいろなあらゆるところを対象に今後広げていくと。私、そういったことは、それでいいなと思うんですけども、もう一つは、群馬県の水上にたくみの里、同じ名前の匠の里があります。このことはご存じですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

申しわけありません。水上の件については、私、承知しておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番(田中立一君)

私も行ったわけではないんですけども、根知に限らず広くクラフト作家を募集するのは、それはそれでいいとして、もう一つは、水上ではたくみの里としているんなクラフト作家が1つの地域内にあって、それこそ、わらや和紙、木工、竹いろんなものがある、そこで大人も子供も体験して、レンタサイクルもあって各工房を自由に回って、1日で回り切れないから宿泊したり、またそのためにリピートがあると。またその中には、道の駅等総合案内とか特産品の販売とかそういったものも多く展開しておるわけなんですけれども、私はそういったことも将来的に考えて、この事業を着手したのかなというのほそかに期待しておったんですけども、その辺はちょっと外れたんでしょうか、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長(齊藤喜代志君)

匠の里の事業のスタートの時点で、公民館単位ぐらいの地区を想定していこうということでしたが、例えば集落、ある程度限定して、ぐっとコンパクトに、それこそ五、六軒のまとまりが匠の里という方法もあるでしょうが、そうじゃなくて、例えば今回、根知ですので、根知ならいろんな上や中や下やというような形で、いろんな形で点在な、要は匠の工房が点在している中を散策してもらおう。そういったのをテーマとしたイベント等もやってもらえればというふうには考えております。そういったことでの交流人口の拡大というの、今後は狙っていきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

これは何人ぐらい、あるいは何軒ぐらいを移住させようとか、していただくとか、そういう目標的なものは持っているわけではないわけですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長(齊藤喜代志君)

全体的に何人という目標は、具体的には設定しておりません。

ただ、今年度は4組10人ぐらいを目標に進めていきたいということで考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

3年過ぎて実費等を負担すると、家賃等をどのように設定していかれる予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

3年間、家賃については、こちらのほうで支援しますという形になっておりますが、その後について借家でいくか、もしくはまた購入されるか、そういったあたりは、その3年間の中で我々も入って家主さんと協議をしながら、後は移住者の方の状況によって対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今、一番心配なのは、せっかく移住してきて、なれ始めてきたなとこっちが思っているときにやめられたということが、一番懸念されるわけですよ。作家さんがよくても家族がついておられれば、やはり奥さんや子供さん等がいろいろとあるわけなんですけれども、そういった人たちのケアもこれから必要になってくるということなんですけれども、他の課との連携とかそういったことは、されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

移住者、移住希望というか今回、匠で応募されてこられた方、今この2組4名については、事前にといいますか一度こちらの状況を見に来ていただいております。そのときにいろいろ根知でいろんなことをやっていらっしゃる方との交流会とか、そういったものも持っております。あわせて、今後、要は自分がこの空き家がいいなといったところの集落等との交流会とか、そういったことも考えて地区全体、集落全体でのサポート、受け入れ体制というものを醸成していきたいというふうに考えておりますし、あと匠の皆さん来られた中では、またいろいろと横のつながりで家族連携とかあるかもしれません。そういったものも地域集落を含めて支援していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

聞きたいのは、他の課との連携を聞いたんですけども、例えば今月クラフト展がありますよね。それで、このクラフト展、今、美山でかなり盛大に開かれて多くの方がみえると。こういった機会というのは、非常に重要なわけですよ、この事業にとっては。私はそう思うんですけどもね。その窓口は、例えば商工農林になるわけですよね。そういったことで非常に連携等があっという感じがしないかなと思って聞いたんですけども、されているのかいないのかを伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

今後は、そういった方たちとの連携というかイベント等の連携というのはあると思いますし、既存で、現在、根知地区に住まわれている作家さん等との交流や話等は、事前に行いながらお互いにここで生きていただくと、暮らし続けていただくということになりますので、そういったことにも配慮はしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

これはかなり長い期間等を時間を見ながらやっていかないと失敗する懸念が正直あります。いろんなところとの、もちろん地元の人が最も大事かと思うんですけども、いろんなところ、特に子供らと来ると教育関係の、あるいは福祉の関係のほうもいろんな課が連携してサポートしていかないと難しいでしょうし、また体験する期間というものも非常に重要になってくるんじゃないかなと思います。ぜひ成功してもらいたいと思うし、また広げてもらいたいなと思います。

もう一点、提案というか考えあるのかどうかなんですけれども、半農半X、田舎暮らしをしたい人というのは、大規模じゃなくて農業をしたいという方が多いわけなんですけれども、このXの部分は、今回これは自分で仕事を持っているわけなんですけれども、その合間に農業をしたいということに対する展開というのは、考えていますでしょうか。また、そういったことに対する希望等をとっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

半農半Xの部分につきましては、農の希望等には、ある程度お応えしていける農地等については、準備できればというふうに考えております。やはり基本的には、やっぱり工芸作家の工芸の作業が中心で、我々、今、地域への貢献というところでは、集落活動等には必ず参加してくださいという条件づけをしております。農業については絶対条件とはしておりません。要望ある方もいらっしゃると思いますので、そういったところはできるだけ集落のほうと、要は空き家のほうの集落のほうとまた相談しながら準備をしていければなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

こちらからの要望じゃなくて、相手がそういう意向があれば十分にかねてあげられるサポートが必要だと、そういう体制がつくってもらいたいということを言いたいんです。ぜひ多様な作家が

来られて、今後、交流人口の拡大にもつなげていきたいという考えもあるようですので、非常に期待して見守りたいと思いますので、頑張ってくださいと思います。

次に、2番の有害鳥獣対策であります。

全国的に各地で人的被害が発生しております。人的被害防止について糸魚川市の鳥獣被害防止計画があるわけですが、その中ではイノシシと熊に関しては、人的被害発生が懸念される。その対策として出没時の捕獲を行うとあります。

7月21日と22日の夜に能生の中心街、能生の事務所付近と中央商店街にイノシシが出没しております。ウォーキングや飲みや夜遅くまで歩かれる人がいる時間帯なんですけれども、そういったことで人的被害が非常に懸念されておりましたが、これについてはどのような対応をされたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

おはようございます。

7月21日の件については、翌22日の朝にイノシシが出たという連絡が市役所のほうに入ってきて、安心メールを出したのと、あと周辺の区長さんのほうへイノシシが出ましたよという通報をさせていただきました。

また、7月の22日の夜に出た件につきましては、その日の夜に安心メールを出したのと、能生事務所のほうでおおむね終電が、一番最後の電車が来るまで周辺をパトロールさせていただいたと。あと、夜ちょっと遅かったもんですから、翌日になって周辺の区長さんのほうへ連絡をさせていただいたという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

最初は21日の夜、22日の朝に安心メール、これ安心メールの内容なんですけれども、能生地区の県道能生インターチェンジ線と市道能生中央線が交差付近でイノシシ1頭が目撃されたと、そういうふうになりました。これを能生地域の人たちに何人が聞きました。皆さん中央商店街と思わなかったですね。インターチェンジの付近と、これどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

議員おっしゃるとおり21日の件についてのメール、確かに場所がわかりにくい。近くの公共施設等をもっと明示して場所を特定できるように発信すればよかったというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほどの鳥獣被害防止計画、この中でイノシシと熊に関しては、人的被害発生が懸念される、その対策として、出没時の捕獲を行うと。そのためのアクションはされましたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

能生地域の件に関しては、2回とも山のほうへ逃げていったということで、猟友会のほうへは、その旨は連絡したんですけども、特にそのときわなを設置したというような対応は、この件のおきに関してはとりませんでした。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

その対応の仕方というのは、マニュアルか何かがあってやらなかったということでしょうか。たまたま今回はしなかった、こういったときにはやる、その辺の判断というのはどのようにされるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

一概にこういうふうにするということではないんですけども、ケース・バイ・ケースになるうかと思うんですけども、まちうちでは銃の使用ができないというので、通常、わなの設置という形になるうかと思うんですけども、頻繁に出没するという状況になれば、わなの設置ということも対応してまいるようなことになっておりますが、今回二日で、あとその後、出てこなかったということで、わなの設置までは至らなかったという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

近所に保育園が2つあります。能生小学校もあります。出没、目撃情報は夜だったわけなんですけど、昼間だと非常にそういう被害の懸念もされるし、また保護者の心配もあります。学校・保育園等の対応は、先ほどの答弁の中ではなかったんですけど、どうされたでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

児童生徒が保育園等にいる昼間の出没がある状況であれば、周辺の保育園、幼稚園、小学校等へ通報をさせていただいている状況でございますが、今回2件とも夜中ということでございましたので、今回については、そういう対応はとってございません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いつあらわれるかわからないわけですね。それで、たまたま夜だったけれども、昼間出る、実際あちこちに昼間出ております。そういった場合、じゃあ被害が出てからでは遅いんじゃないかなと。どういう対策が一番いいのかというのは、また考えることにしてでも、その辺の検討というのは必要なんじゃないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

議員おっしゃるとおり夜出たから昼間出ないかという、そういうわけでもございませんので、今後、そういう場合についても周辺の保育園、小学校等への連絡をしまいたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

農作物の被害で電気柵が対応策としてありますけれども、電気柵の場合、補助の条件があります。ちょうどその補助の条件の年数が電気柵の耐用年数とほぼ同じというふうに聞いております。中山間地の農業生産者というのは、8年後、さらに高齢化していくと。やはり今、補助の事業を行うに当たって、切れるころの対応というものも考えていかなければならない。金曜日の一般質問の中で、島道の行っているスマートフォンを使った事業もありますが、その辺の説明と合わせてどう考えているかお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

電気柵の設置につきましては、28年度、今年度の状況で述べ245キロになります。23年度までに20キロでしたので、ここ四、五年の間に10倍以上に延長がふえているという状況になっ

ておりまして、今、議員ご指摘のように耐用年数、それから、それを管理される農家の皆さんの高齢化については、やはり今、ご意見いただいたものを早急に課題の整理に取り組みたいというふう
に考えております。

それから、2点目の島道での新たなイノシシの捕獲システムにつきまして、金曜日の一般質問でも答弁させていただきました。市長のほうから指示がありまして、四国ジビエ株式会社がハンティングマスターというのを設置して、捕獲をしてるので調査しれということで、この3月、四国のほうへ行ってまいりました。

結果、ことしから能生谷の島道地区で、おりを設置して、そのおりに入る動物の体温をセンサーが感知し、センサーが感知しますと猟友会なり農家の皆さんの何人かの方のスマートフォンにメールが入りまして、ボタン操作でもっておりに入っている鳥獣害を確認できると。それによってボタン操作をしますと、おりの扉が落ちて捕獲できるというものでございます。

おりの大きさは、3.6メートル真四角の、高さが1.8メートルのおりで、単管パイプを組みながら鉄のメッシュを組み入れて、あるいは張りめぐらせて設置するおりでございます。地元の猟友会の皆さんにもご協力いただきまして、先週末におりの設置ができたということで、これからハンティングマスターというシステムの設置を早急に取り組んでいきたいということでございます。この効果がどのくらい出るのかということと、それから鳥獣害が市内各所にありますので、糸魚川地域、青海地域でもお声かけした地域があるんですけども、ことしの能生谷の島道の状況・効果を見て検討していきたいということになっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ありがとうございます。

次に、女性ハンターですけれども、現在、市内に1名おられるということですね。ぜひその1名の方大事に、またさらに拡大していかれたらと思うんですよね。結構、関心を持っている方が多いというふうに聞きます。それで、そういった女性ハンターの拡大なんですけれども、女性とか若い人に対して、狩猟サミットというのは2013年からあるそうですね。岐阜で第1回が開かれて、ことしが13、14、15、16、4年目ですか、北海道である予定なんですけども、随分、若い人が集まったり、女性が集まったりと、このサミットはご存じでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

そのサミットの件に関しては、大変申しわけございません、承知をしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

サミットはサミットでそういった情報等がいろいろとあるということで、そういうのを参考に拡大していただけたらと思います。

先日、日本農業新聞にも金沢市で住んでる方が白山市に移住して、狩り女についての記事の掲載がありました。2013年に白山市に移り住んで14年にハンターになって、石川県内で狩猟免許を持つ女性をことし3月に狩り女の会を集めて結成したと、狩り女の会をね。そのようにいろいろと横のつながりといいましょうか女性の、大阪にもたんぼぼの会というのがあるそうなんですけれども。そういったことによって、女性が入っていくとジビエ料理、あるいは革製品、そういった展開も非常にこれから有望されるということです。ぜひそういう興味のある、あるいは関心のある女性の方をターゲットに、また広げてもらいたいと思います。

体力が狩猟には必要なんですけども、女性には不向きというふうに従来はあったそうなんですけども、最近はやっぱり先ほどのスマートフォンじゃないですけども、ITの活用だとかあるいは軽量なものだとかいろいろあるそうなので、その辺の拡大策の中で研修をして広げていただきたいと思います。これは要望であります。よろしくお願ひしたいと思います。

耕作放棄地の課税のほうにさせていただきます。

今回、先ほどの答弁では、ないというふうにありましたけれども、意向調査等を受けた農家というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

新たな課税強化につきましては、農業支援センターにおけます集落農業懇談会、またあるいは農業委員会が発行します農業委員会だよりで、この課税強化についてはお知らせをしまいついてきてるところでございます。議員の質問の中にもございましたように戸惑いというのが言われておりますけども、確かに非常にわかりづらい、理解しづらい部分があるかというふうに考えております。まだまだ周知をし、お知らせしていかなきゃならんというふうに考えております。これは農業委員会が毎年1回、現地確認をして遊休農地の確認をし、その後に遊休農地と確認できた方々に、今後どうされるんですかという調査内容をさせていただいて、その意向によって、場合によっては課税が強化されますよという制度でございます。

ちなみに昨年でありますけども、これは農業委員会の現地調査じゃなくて、市の農業サイドのほうで持ち合わせているデータによりまして遊休農地化しそうな方々に意向調査をさせていただきました。約220人ほどございました。そのうちの半分が、やはりまだ制度の周知不足ということで、回答が重立った回答になってきてないという実態もございましたし、農地中間管理機構に農地を貸し付けますよという回答も出てきておるところでございます。冒頭申し上げましたように、やはりまだまだ農家の皆さんへの周知が足りないところを感じておりますので、今後、もっときめ細かく説明をしまいたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番(田中立一君)

私も耕作放棄地の課税ということで、耕作放棄地という言葉を使っていたんですけども、説明の中では、遊休農地というふうになる。遊休農地と耕作放棄地というのは、イコールなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

私どものほうで遊休農地として捉えておりますのは、1年以上耕作されず、かつ今後も耕作される見込みがない農地というふうな定義づけで把握しております。単なる耕作放棄地とどう違うのかというところなんですけども、期間の捉え方、それから今後の利用見込みの捉え方が違うんだろうというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

先ほどの説明の中での課題として、まだ周知していかなければいけないということは話ありましたが、懇談会というのは、かなり開催数というのはあるわけなんですか。

また、参加状況というのは、どんなぐあいなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

地域農業懇談会は年2回、これは当課のほうで主催をしております懇談会が2回でございます。そのほかに農協さんが農家組合長会議等で開催されている懇談会もございます。会場は約13会場でありまして、ここ二、三年やっぱり農業の政策的なものが変わりますので、きめ細かく回数を重ね、説明はしている状況ではありますけども、やはり私どもが期待するほどの参加者が多くないというところは、どのように工夫していけばいいか課題として捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田中議員。

7番(田中立一君)

当市では、余り対象となる農家は、この件に関してはほとんどないというふうに聞いていましたけれども、今後の展開の中で、全てこういった集積というものが農地の中間管理機構を通すケースと通さないケースとどうしても発生してくるんじゃないかと。今後、これからの当市の見込みとしては、どのようになっていくのか。中間管理機構を通すと税の軽減措置がある、その辺の状況の把握、農家のほうはされているのかどうか、その辺はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

農地中間管理機構が設立された当初は、非常にやはり機構に集まる農地が少のうございました。これは全国的な傾向でございます。今年度に入りまして、その面積がかなりふえてきております。今、議員言われますように課税上の問題もさることながら、農地を集積することによって地域にまた交付金が出るメリットもございます。そのようなことも、我々地域に入りまして説明をしてきた成果が農地の集約・集積化が進み、また農地中間管理機構に農地を出すというケースがふえてきているというふうに捉えております。

今、新潟県の場合には、農地の貸し手、受け手のある程度のマッチングをしたものを農地中間管理機構に出しておりますので、そのマッチングにつきましては、やはり当課あるいは地元の農業委員の皆さんにもお力をいただいたマッチングの効果が出てきているんだらうなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次に、4番目の権現荘の経営計画について伺います。

先ほど収支状況について答弁をいただきましたけれども、ことしの28年度に関して、4月から7月末現在では、宿泊者数は1,064人の減、日帰り客が1,783人の減、今9月の、きょうは6日ですか、8月の目標があるわけなんですけれども、見通しとしては、もし数字が出ていたら8月の状況をお知らせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

詳細については、また後ほどお答えしたいと思いますけれども、私、手元で計算しましたら、予算に対して大体15%減ぐらいの実績でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

15%の減というのは入込客数が減なのか、宿泊、日帰り。それか黒字の収支のほうが減なのか、聞いているのは収支と聞いているから恐らく収支のことかなと思ってるんですが、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

失礼しました。売り上げベースでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

示されている資料では、4月から8月までは、じゃあ全て目標の数値からは全部、減になっているわけですね。ということで、この辺について予算審査のときではいろいろと説明をいただく中でこの数字を目標に掲げて説明をされましたけれども、上半期は、少なくとも8月までは全部下回っていると。目標の設定についてはどのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

月々の目標につきましては、これは3月の定例会の予算審査特別委員会のときに、年間12カ月でトータルでということが、まずございまして、それを12カ月に案分して、それぞれ張りつけた収支というものをつくって皆さんの資料にお配りしたわけですけれども、それを目標値として月々、収支の状況を比較しているということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

支配人の、存続するかしないかの判断において、7月末までの目標が設定されましたわね。その説明もやはり今の説明と合うわけなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

支配人の、10月1日以降どうするかという評価の基準になった4月から7月までの期間の、その金額についても今申し上げました28年の12分割したものの4月から7月までという表で拾った数字を目標値にして計算しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

単純に12分割したような印象を受けるわけなんですから、過去のデータの中で各月の収入、あるいは入込客数等を算出したんじゃないというふうに言われるわけですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

1 2 分割というのは、計算機で割った 1 2 ではなくて、それぞれの実績に合わせた加重をつけて、それぞれに料をつけているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7 番（田中立一君）

では、上半期は予想がつくかと思うんですけども、今後の予約状況、あるいは企画等において最終的にそのような数字になっていくように、今、頑張っていると。あるいはそのようにしていると。その見込みというのはあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

ただいま市長の回答にもありましたとおり、上半期の状況を見て、下半期、6 カ月間の見込みを立てていきたいというふうに考えておりますので、ただ状況は、非常に厳しい状況になっているということだけは認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7 番（田中立一君）

ちなみに 9 月、10 月の予約状況というのはどんなでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

手元のところには、まだそこまでの詳細の予約状況は入っておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7 番（田中立一君）

私らも非常に、これについては関心があるんですけども、所長は予約状況については関心がないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

関心がないわけではありませんけれども、正確な数字というのがなかなか難しいということで、ある程度、予定であれば今現在どうかということは調査させることはできますのでお答えしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ある程度、経営ということを考えていくと今現在の収支、状況を見て、今後の対策を立てていかなければなりませんし、今わかっている範囲の資料の中でどのように改善していくかという努力をしなけりゃいけないわけですね。それを今されていないような印象を受けてしまうんですけども、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

目標値もございますし、今現在の置かれた状況というのは、承知しておりますけれども、今また支配人の10月1日以降の処遇が、もう再雇用しないという状況も見えてきました。そういったときにどういうふうな状況になっていくかというのは、もうちょっと詳細に、私たちも状況を調べていかないと、ちょっとどういう結果になっていくのかというのがなかなか見えてこないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

やはり企画というのは、もう夏のうちに秋・冬の企画を考えていくのが普通、商売をしてれば当たり前なんですけれども、それを立てるんであっても今現在の状況をただ単に厳しく受けとめてるだけじゃなくて、もう毎月毎月、赤字で目標を下回ってるわけですから、じゃあどのようにしたらいいかという対策は、既にできていなきゃいけないわけですし、そのための資料とか情報というものを持ってなきゃいけないと思うんですけども、それはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

これは現場で、まだ支配人は9月末まで任期ございますので、今後の秋ですかね、そういったプロモーションといいますか、どういった企画で秋のお客をつかんでいくのかということは、協議をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

支配人交代するのは、10月からですわね、9月いっぱいまで。それから、これからの考えを検討していくと。遅過ぎませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

いつも秋については、四季のプランの中でノドグロですとか、またカニについて集中的に売ってくというふうにやっておりますので、そういうことをことしもやっていくんだらうというふうに考えておりますし、また8月中に関西のほうですけれども、エージェントさんが旅行契約を結びたいということでお話がありました。こういったところを契約を結ぶ中で、関西から誘客をするように協議をして進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ちょっとあれかもしれませんが、このまま毎月毎月、目標設定を下回っていく可能性というものをどうしても今の答弁だと拭いきれないんですけれども、もしもそうなっていった場合は、どのようにこれから対策を考えていくのか。その辺のことも合わせてどのように対応を立てていくのか、もう今からやっていかなきゃいけないんじゃないかと思うわけですよ。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

おっしゃることは、非常にもっともでありますし、このまま落ちていくのをただ見ているというわけにはいけないと思いますので、また全庁的にいろんなアイデアをもらう中で、権現荘の売り上げを伸ばすためにどんなことができるのか。また、いろんなアイデアをもらいながら進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

1つのあれとして、幾ら払ったかは、あれなんですけども、経営診断の報告書でいろんな指摘はされておりますけれども、営業の改善課題として権現荘の経営診断報告書、稼働率のアップが挙げられております。非常に平均よりも少ない数字、数字言おうと思ったけど時間がないのでやめとき

ます。この稼働率の現状に対して、今後のアップに対しては、どのように考えていますでしょうか。わからないかな。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

報告書の中に稼働率が低いと、アップしなければいけないというのがございました。私たちもそのことは認識しておりますので、先ほど申し上げました関西系のエージェンツ、旅行社との新たな事業の展開、またほかにも平日対策ということでもっと多くの業者さんと提携できればいいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

今の答弁またいろいろと聞きたいんですけど、ちょっと先行かせてもらいますね。

今の支配人は、アクティブシニア層をターゲットにして消費単価を上げているというのが、前に答弁でありました。これも稼働率アップに、この高級路線、この方針としては権現荘として合っていると思っておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

アクティブシニア層の概況ですけれども、大体65歳から70歳ぐらいまでの年齢的の幅の中で健康であり、車を持っているんなレジャーに興味を持っている方々ということで、こういった方々につきましては、必ずしも土曜とか日曜とかにこだわらないで月曜日でも水曜日でも動けるという方々という認識のもとに、こういった方々においしい日本海の料理を食べていただくという、そのセールスをかけていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それが稼働率アップにつながるかどうか。権現荘の本来の存在意義と照らしてどうか。この夏、帰省客の中でよく聞かれたんですけども、権現荘を以前利用されて、帰省客ですね、2泊、3泊したけども、ことしは宿泊単価が高くなっていて1泊で帰ったという声をたくさん、私は聞きました。あわせて、その辺の情報というのは、あるいはその辺の認識というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

今、客室のほうは、昔の状況から見ますと本館をやめ、またリニューアルによってレストランの部分の部屋がなくなるということで、客室が非常に数少なくなっておりまして、30、29ぐらいの客室の中で営業をやっているということがあります。

また、昔の7,500円の1泊2食であるとか、そういう時代から今、変化して、大体、平均で1万3,500円ないしは1万4,000円ぐらいの料金設定の中でお客さんに営業をかけているというのが実態であります。そういった中で、この4月にも平均で600円ほどの料金を値上げをさせていただいたところでありまして、これは先ほど言ったコンサルタントの結果、診断書の中にもありますが、売り値がまだ安いのではないかと表現があって、私も着目したんですけども、まだお客様に対して料金のところについては、まだ少し考えようがあるのかなというふうに考えております。料金の高い低いは、個人差がございますので、何とも申せませんが、できればこちらからは妥当な金額で営業をかけていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

聞いているのは、この路線が稼働率アップにつながっているのかどうか、権現荘の存在意義、本来の目的と照らして、その辺は合ってるのかどうかということを知りたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

まず、稼働率ですけども、これは昔の2万5,000人来ていたころの状況とは、今の状況は稼働率は変わってきております。なるべく少ない金額の人数の中でも収支採算を合わせていきたいという新たな戦略の中で取り組んでいるものであります。

それと条例上の目的といいますか、そことどうかということですけども、これは宿泊については交流人口の拡大ということであつたわけでありまして、その中では地元のおいしい魚を召し上がっていただいて、リピーターになっていただいて繰り返し来ていただきたいというところの部分では、そんなに外れていない政策なのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

地元のそれを押し上げているのが、ノドグロや毛ガニ、ズワイガニ、地元の、果たして物でいつてるのかどうか、ちょっと疑問の残る内容だと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

できるものであれば能生漁港で揚がった魚だけでやっていきたいという気持ちはあるんですが、その魚種だけでは1年間を賄うことがやっぱりできない。

また、お客様のニーズと申しますか、そういったこともありますので、売れる魚ということで着目していくとどうしてもそういうことも起きるといふことでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

食材の原価のところで聞こうと思ったんですけども、今、ノドグロとか毛ガニ、それからズワイガニという非常に高価な食材を市外から調達している。理由は、今おっしゃったわけなんですけれども、こういったことについて、市内の業者に対しての見積もり依頼とか問い合わせというのは、どのようにされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

お魚であれば、実はあそこの競り場の権利も、実は権現荘持っておりますので、そこへ参加して、直に仕入れるというようなことをやっております。

また、特殊なノドグロ等であれば、これは戦略的なものですので、今、市外のほうから仕入れております。ただ、これについても市内の業者にも確認しましたが、上越の業者から買ってるほうが値段は高いのではないかというふうな回答がありましたのでお伝えいたします。

もう一回しますが、上越から仕入れたノドグロの値段のほうが地元のものよりも安いということで、地元の業者がそう言ったというのは聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

地元の業者に見積もりを出したというわけじゃないということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

これはペーパーで見積書という形でとったというものではなくて、情報としてどうですかと聞いたときに上越のが安いねという回答が返ってきたというものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

市内にもいろんな業者がありますし、市場もあります。ぜひ問い合わせをした上でやるべきじゃないかと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

鮮魚以外にもたくさんの仕入れがございまして、この4月以降は、3月定例会で地産というのが地元で消費してもらいたいということでありましたので、うちの振興係長のほうから現場のほうに地元で仕入れられるものについては、業者を紹介して連絡をとって、安いなり条件が合えば市内の業者に変更してもらうように指導をしたというところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

どうも答弁が聞いていることと少しあれなんですけど、そういう見積もり依頼だとか、それぞれの市内にある業者に対して働きかけをしたかということ聞いてるんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

1点、市外の業者から市内に変わった食材が1つありまして、肉類、これ上越の業者だったんですけども、これが4月から市内に切りかわっております。かなり高額で、27年の状況で大体800万ぐらいの仕入れがあったものが市内のほうに業者が切りかわってるという実績ございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ノドグロや毛ガニやズワイガニとわざわざ名前言うてるんですわ、こればかりやっているとどんどん時間がなくなっていくので、ぜひ市内業者にもいろんな見積もりを出してもらいたいと思います。

ちょっと1点確認させてもらいたいのが収支のところなんですけれども、内部監査制度の実態報告書では、収入は発生主義、それから支出は現金主義を採用していると。月別の収支が作成できていないと。こういう業界は、発生主義を採用するということになってるんですけど、現在は会計処理どのようになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

支出のほうの現金主義につきましては、まだ公会計のものが生きておりますので、支払いについては現金主義をまだ使っております。完全に両方とも発生主義には移行しておりません。

ただ、数値の確認ということでございますが、この4月から日計表をつけておりますので、そちらの月々の入りと出、実際のどれだけの債権・債務があるかということは、日計表の中で確認できるようになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この現金主義と発生主義、混同していて、今までいろんな資料いただいたわけなんですけれども、収支の状況というのは、これまで全部正確だったのかなというのが、ちょっと単純に思うわけなんですけれども、それはどうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

公会計の部分と企業会計的な部分との説明をさせていただきますけれども、権現荘の特別会計では、公会計ということで先ほど能生事務所長が説明したような形で収入と支出の会計処理をいたしております。それでは毎月の的確な収支が把握できないということで、この4月からは日計表、それから毎月の収支月報という形で速報値であったりしますけれども、年間の、例えば委託経費等も毎月に振り分けて収支を管理するという形で、公会計とは並行的にそういう毎月の収支の管理をする。その取り組みをすることによって毎月々の収支の状況把握をし、翌月の改善につなげていくという取り組みを、この4月からは明解に進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ということは、予算審査の3月のときは、収入が発生主義で支払いが現金主義。指摘されてるように正確な収支が把握できないという、そういった資料を出していたというわけなのですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

公会計におきましても年度末、年間を通じての収支は明らかになりますので、それについては平成27年度の3月時点で収支を報告させていただいてるということであります。毎月々の収支の状況把握というのが、公会計の今までの状況ではできていなかったということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

結局、正確な収支というのは、今4月以降でないと言われていないというふうに受け取っていいんですか。今の説明だとちょっとよくわからないんですけど、私には。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

公会計においても年度末の決算を結ぶ段階で、年間の収支というのは明らかになります。それを議会のほうにもお示しをいたしておりました。毎月々の収支という状況では、公会計の段階では先ほど言っております現金は発生主義、それから支出のほうは現金の支払い主義なものですから、時点がずれるというような形で、正確な毎月々の収支把握が公会計のときにできていなかったの、それとは別に今回は、並行的に企業会計的な視点での収支もあわせて別途やって把握するようにしているということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ちょっと先に行かせてもらいます。

10月以降の支配人については検討中と、金曜日にもそういう答弁がありましたけれども、もし答弁できるのなら教えてもらいたいですけれども、総務文教常任委員会の開催日というのは今月の14日、そのときに考えを示されるということなんですけれども、もしも募集するとなれば、それから募集していくということになるんですか。それとも募集というのはないのかどうか、その辺の情報というのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今のところ募集をしないということで考えております。14日、15日の総務文教常任委員会のときには、きちんと報告をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

市民の間でも10月以降どのようになるのだろうか。権現荘の体制はどのようになるのか。非常

に関心もあるし、心配もしておるわけなんですけれども、募集を行わないということになると、また選択肢が随分狭まってくるわけです。恐らく今聞いてもなかなか答えないのかもしれませんが、経営計画の見直しの中で指定管理者制度へ移行することが、従来は、以前は平成30年の4月から、それが1年前倒しということは、平成29年の4月からというふうに理解していいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

先般の総務文教常任委員会でもお答えいたしましたけれども、今、田中議員がおっしゃるように当初の段階では、平成30年度のときに指定管理を導入したいということでありましたが、29年度中のできるだけ早いうちに指定管理に移行するよう、現在、庁内での準備・検討作業を進めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

その方向性というのもあわせて総務文教常任委員会の14日に話をされる予定でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

そのようにいたしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

改めて何うんですけれども、前倒しした理由というのをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

3月の議会の中でも議員の皆様からいろいろな権現荘の運営における問題点等をご指摘をいただいたところであります。そのような状況も踏まえて、できるだけ民間的手法を入れて指定管理の導入を早くすることによって、いろいろな問題点についても改善を図るべく、また行政としても指定管理をできるだけ早いうちに入れたいということで進めてまいりました。リニューアル後、2年間の

収支の状況を見てということでありまして、1年間の収支状況を見る中で、できるだけ早めていきたいというようなことで前倒しすることにいたしましたものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

次に、宿直に使われた客室、あるいは権現荘の修繕予定なんですけれども、やはりいろんな市民とお話ししても特別室を宿直室に充てるのはおかしいという声が非常に多く聞かれるし、またそういった事実をお話しすると大変驚かれる。8月12日の全員協議会で、その特別室をスタッフルームにするという発言がいきなりあったわけなんですけれども、金曜日にも一般質問の中にもありましたが、これは決定なんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

まだ決定はしておりません。いろんな部屋をまだ検討しているということでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

その特別室の入り口には、これ金曜日の中にもありましたけれども、スタッフルームの札が出されて張ってあるわけですね。これはご存じかと思うんですけれども、誰がつくって誰がいつ張ったものか、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

権現荘の職員のほうでスタッフルームということで、客室のままでは、またいろいろ誤解を生みますのでスタッフルームの表示をしたということでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もうあそこがスタッフルームの既成事実のような印象を受けてしまうわけなんですけれども、能生事務所としては、それを知ったのはいつですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

3月定例会のときでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

3月定例会という随分前になるわけなんですけども、そのころから使っていたと。スタッフルームとして札を張っていたということですか。それを聞いて、所長としては注意をしなかったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

スタッフルームとして使ったのが3月ということではありませんで、そういうふうに使ってる事実を認知したのがそうであるということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

私が最初聞いたのは、スタッフルームの札を張ってあるのを知ったのはいつかということなんです。それについていつ知ったかということと、それを聞いて黙認してるのか、それとも指示してるのか、許可をしたのか、注意したのか、その辺のことを聞いてるんですが。

議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午前11時23分 休憩

午前11時24分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

スタッフルームの表示は、6月の23日以降ということでございます。

また、それについては庁内でもいろいろ協議がありまして、私自身もそこにスタッフルーム、使わない日が非常に多いもんですから、そこに当面やるのはやぶさかでないということで承認をした

ものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

注意はしなかったわけですね、許可したわけですね。

市長に伺いますけども、市長は、この特別室を支配人が使用していたのを知ったのは、やはり3月なんでしょうか。それを知ったらどのように思われて、どのような指示を出されたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

スタッフルームにつきましては、3月定例会以降、4月か、もしくは5月ですけども、私が能生事務所等と打ち合わせする中で、もしそういうふうに関係泊まってるならば、そのときはスタッフルームにすべきでないかと、そういったことで申し上げました。ただ、私はその時点では、まだそこが特別室だというのは聞いてなかったもんですから、ただ一般の普通の部屋だということで誤解をしたということになります。その辺は大変まずかったと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

例えば特別室とわかったら、じゃあまずいと思ったというふうなニュアンスも受け取れるわけですけども、そのように知ってから、じゃあどのような指示を出されました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

特別室とは思ってなかったんですけども、その後、議会の総務文教常任委員会等で特別室だということに聞きまして、ちょっと私もびっくりしてるところであります。それにつきましては、今後、新しい支配人といいますか、小林支配人にかわる者を早く決めて、その辺も含めてきちんとしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

最初の答弁で騒音の防止工事をするような話だったんですけども、騒音防止工事はするんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

議会のほうからも、この部屋というのは特別室なので、部屋として使うべきじゃないかと。スタッフルームというのは不適当であるというご意見をいただいていたもんですから、ただ、騒音があるということはもう認知済みでございますし、私も聞いたことがありますので、この騒音をどうするかということで、今は改修業者、また、そのこの1階の配管の専門業者に聞いて見積もりを上げてもらいたいと。どうすれば静かになるのか、それはコストは幾らかかるのかというのを、今、算定させているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

騒音の元凶である場所は、下の厨房ですわね、レストラン。その時間帯だけ、お昼だけなんですよ、今はね。朝は使っていません。なので、チェックインまでの間にやめてしまえば十分に静かなんじゃないかと思うんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

私が聞いておりますのは、まず空調のコンプレッサーの音、それがまた地下にそういう部屋がありますので、機械室がありますので、そこから上ってくるのが、コンプレッサー稼働してればずっとサーモスタットで入ったり切ったりする状況のときに音がするというのが、まず1点。それと真下の厨房の換気扇の音ということで、これは夜になれば掃除が終わって、とめれば音はしませんけれども、朝は5時から準備ということで職員が入って、換気扇はもう回してしまうということで、寝てらっしゃる方は、5時からその騒音を聞くということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

あと3人いたわけですけども、3人の配置がフロントと厨房、結構サービスのほうも残業長かったんですけども、そちらの配置というのは考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

4月以降、3名の増員ということでやっておりますけれども、結果的には、厨房のほうは2人、それとフロント1名ということになっております。サービスについては、なぜかということですが、一応、シフトの仕方、また働き方の見直しによって、これは工夫によって、その時間数を下げられるのではないかなということで支配人と相談して現場対応でやってるというところがございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

労働基準監督署の是正勧告の中で、休日労働の割り増し賃金の不足額がありました。15名に9万362円の支払い、8月21日に支払われたんですが、どのように支払われ、対象者がどのように説明をしたか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

振興係の係長のほうから状況を説明して、こういうことで支払うことになったということで説明をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田中議員。

7番（田中立一君）

早く本来の親しまれる権現荘になっていくことを期待して一般質問を終わります。

どうもありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を午前11時40分といたします。

午前11時32分 休憩

午前11時40分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔 17番 五十嵐健一郎君登壇〕

17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

発言通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、糸魚川版DMOの作り方について伺います。

兵庫県豊岡市では、地域商社の豊岡版DMO機構を（一般社団法人 豊岡観光イノベーション）をここの6月に設立し、代表に中貝豊岡市長、職員は専任5人、兼任1人、ほか非常勤のデータ分析専門家1人であり、参加企業などでは、豊岡市と商社の全国20路線を走る高速バスWILLER EXPRESSに加え、近年では、鉄道事業も手がけるWILLERグループ、旅行業免許を持つ全但バス、金融機関の但馬銀行、但馬信用金庫の地元企業4社が基金を拠出し、事業本部長に三井物産から田辺氏を迎え、戦略的パートナーにはJTB、楽天なども列しています。

収益事業としては、インバウンドに焦点を当て、2020年に外国人宿泊客数年間10万人泊を目指し、宿泊予約サイトの運営着地型ツアーの企画、販売、豊岡ブランド商品の販売を推進しています。

そこで糸魚川版DMOの具体的な作り方について伺います。

(1) 進捗状況について。

(2) 役割と対策について。

(3) DMCとの連携について。

このDMCは、日本版DMCとは地域資源の観光的価値を貨幣価値に返還する企業、いわゆるバリューイノベーションカンパニーであります。

(4) ジオパーク戦略プロジェクトとの関連について。

2、女性の定住移住促進策について伺います。

国では、全ての女性が輝く社会の実現を目指して、女性の活躍は一般総活躍のための極めて重要な柱である。女性活躍推進法の実効性を確保すべく取り組みの見える化や認定制度、公共調達の活用により、企業の取り組みを促します。働き方改革や男性の意識改革、仕事と子育て、介護などを両立支援を進める。

また、起業や再就職、地域活動など女性の多様なチャレンジを支援すると言っています。糸魚川市では、女性活躍計画を含む現在、いといがわ男女共同参画プランを新たに策定しています。

そこで、女性の定住移住促進策について具体的に伺います。

(1) 成果と分析検証について。

(2) 調査・研究について。

(3) 今後の策定計画への反映策について。

(4) 「糸魚川輝く女性表彰」の制度創設について。

第1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、糸魚川市観光協会が日本版 DMO の候補法人として、この春に登録され、組織の法人化と旅行業の登録に向けて検討委員会を設置し、計画を進めております。

2 点目につきましては、市といたしまして観光協会と連携をしながら積極的に参画する中で進めてまいりたいと考えております。

3 点目につきましては、観光協会が着地型観光の旅行商品をつくっていく中で、旅行会社などの DMC との連携が重要と考えております。

4 点目につきましては、ジオパーク戦略プロジェクトの中で観光協会が行うジオツアーやキャンペーンなどを位置づけ、官民一体となって取り組んでまいります。

2 番目の 1 点目から 3 点目につきましては、男女を問わず U・I ターンに必要な仕事や住まい、子育てなどのほか就学資金の貸与など幅広い分野で移住定住事業に取り組んでおります。

4 点目につきましては、今年度、女性活躍推進計画を盛り込んだ第 2 次いといがわ男女共同参画プランを策定する中で検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17 番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

DMO から伺いますが、今の話を聞くと観光協会が法人化、旅行業、それに検討委員会を設置するということなんですが、その辺の具体的な進捗状況、どの辺まで進んでおられるのかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川市観光協会が 4 月の 22 日に DMO の候補法人に認定されました。その後でありますけれども、まずは組織の体質強化を図る上で法人化が必要であると。また、DMO 自体が法人化を目指すことを第一義としておりますことから、法人化に向けた検討を進めておりました。先月でございますが、法人化の検討委員会の設置が決定し、今後、検討委員会の中で DMO 推進の方向性、組織強化、着地観光について検討することとしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17 番（五十嵐健一郎君）

これからだということなんですが、その考え方、私が先ほど言った豊岡市の考え方とか、妙高市

も今進んで、大分やっとなるんですが、その辺も含めて今の方向性を今後、取り扱うというんですが、官民一体となって民間も含めた中で今の農協なり漁業組合、いろいろな形で全体が入って今、検討会をやるようとしてるんですか。その辺の枠組みどんな程度ですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

検討委員会のメンバーでありますけど、観光協会の会長のほか、各支部から糸魚川支部、能生支部、青海支部がありますが、各支部から支部長とほかに2名という形で9名ですので、協会長入れて10名の組織の中でやっていこうと思って、やる計画であります。今、ご指摘の農協さんとかという話でございますけども、観光協会そのものが農協さん、漁協さん、さらにはさまざまな金融機関を含めた事業者、団体等が入っておりますので、今後、この検討委員会の考え方をまとめる中でそういったところにも幅を、いわゆる協会員全体としてDMOをつくっていく取り組みを進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その考え方ですね。やっぱり最初が肝心なんで、私はやっぱりその辺の方々も検討委員会から入っていただいて、農協さんや漁協さん含めて地域づくり担当も全部含めて地域と一体になったDMOを取り組んで、最初からですよ。やっぱり最初から、今後、考えるとかが言っとる暇ないんですよ、今、権現荘の問題だとかいろいろあるでしょうけど。その考え方、やっぱり今インバウンドだとかいろいろな形でどんどんやっていこうとするところなんで、その辺の考え方どうですか。検討委員会からは、その辺も広げて検討してもらおう。それで、先ほども私が、豊岡市が言いましたように、大手を呼ばってくるとかいろいろな形で、全国公募ですよ。その辺じゃないと糸魚川市はやっぱり発展しませんよ。いろいろな形で皆さんから来られる今チャンスなんですよ。3月に北陸新幹線開業して、今がチャンス。設立でのんびりしてる場合でないんです。その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり北陸新幹線が開業してまさにチャンスであって、ゆっくりしていることではないというようにも思っております。今現在、ともかく法人化というものを急いでおりますので、まずこれをやっていこうと。この過程の中で議員おっしゃるような巻き込み、ともかくDMOをつくる上では、地域の巻き込みが非常に重要だという観光庁の指摘もありますし、またそうでなければいけないと思いますんで、そういう巻き込みをしていきたいと思いますし、また今後、外からの

人材といった視点についても気を配りながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

法人化のめど、その辺をお聞かせ願いたいのと、外からの人材も気を配る。気を配るだけじゃだめなんです。連れてくるぐらいの、やっぱりその辺の覚悟があるんですか。危機感がないんですよ。気配るだけじゃだめなんです。その辺をやっぱり新年度の予算に向けてどうするかを含めて、その辺やっぱり今、新年度予算に今度は取りかかるんでしょう。その辺は、国から連れてくるとか、民間のどっかの人を連れてくるとか、その辺の考えはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

民間から、あるいは外からという話ではありますが、観光庁のほうでは、来年度、民間人材の派遣制度をDMOの候補法人に対して実施したいという考えをお持ちであります。ということで、できましたらこの制度を活用する中で、今、議員ご指摘の部分を取り組んでいきたいと思っております。

昨年度なんですけども、国から大手の旅行会社、また大手の商社等の人材派遣といった話がありまして、私も職員が出向く中でいろいろお話をさせていただいたんですが、結果的にうまくマッチしなかったという事例があります。いずれにしても、ともかくいろんな力を借りてやっていく、今までの観光協会だけ、あるいは市だけ、行政だけといった考え方ではなく、議員おっしゃるようないろんな方を巻き込みながら糸魚川市の観光づくりを進めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこがやっぱり大切なんですね。地域住民、宿泊施設、交通事業者、商工業、農林水産業、飲食店も含めて行政組織は一体になって取り組むのがDMOだと思うんです。

そこで、これから始まっていくんですが、観光戦略だとか各種データの収集・分析も含めて、もうジオパーク戦略プロジェクトで動いてるんですから、やっぱり経済波及効果を生み出すためには、そこもジオパークで取り組んでいるんだから一体になって同時進行なんですよ。その辺どういうつもりでやっていくのか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まさに観光とジオパーク同時進行だと思っております。ということで、私ども課に観光係があって、ジオパーク推進室があるんだと思っております。議員、先ほどおっしゃったように、北陸新幹線開業というのは1つの大きな核になってくると思います。そうした中で、今の世界ジオパーク、あるいは糸魚川の食といったものを磨き、活用する中で広域連携をして、まさに稼ぐ観光地づくりを進めたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

DMOのM、2つのMがあるんですね。1つはマネジメント、それともう1つのMはマーケティング、この2つなんですよ、DMOの大切なもの。やっぱりそこに目をつけてマネジメントできてマーケティングも含め、国際なんですよ、やっぱりインバウンドも絡めていってるんだから。そこに通じる人を、先ほどの29年度、国が予算つけてくれると、それに乗っていくんですよ、人材も含めて。今から、だけん動き出さないことには、それも誘致できませんよ、企業とのアポイントメントもとれんでしょうから。今が、9月が国の予算確保について一番大切なところだと思うんです。その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員ご指摘のとおり早く取り組まないにだめだということは、十分承知しております。そうした中で、私ども職員を大手の会社等に派遣したり、説明会を聞く中で、常に国の動きを把握する中で、今、進めております。議員おっしゃるように、乗りおくれることのないように前向きに進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺で取り組んでると、水面下でしょうけど。やっぱりそこら中にDMOが上ってきますんで、取り合いなんですよ、競争の時代だから。やっぱりいい人材を見つけるっちゃ早目に手を挙げて、その辺から国をバックアップして国会議員も動かしながら、どう人を集めるか、そこだと思うんですが。やっぱりマネジメントが一番大切なのは、利益の創出と雇用の創出。ここがマネジメント。それとマーケティングは、やっぱり商品、サービスの、購入して地域資源の貨幣価値への転換。それと観光客の満足度向上によるリピーター化の実現。リピーターがある。来てもらわなんですよ。みんな潤ってもらいたい。稼いでもらえるようになるんです、同時進行で、今、ジオパークも絡めて。その辺で市長、人材どうでしょうか、今やっぱり打ち出していないことには、か

なり遅くなると思うんですが。水面下で動いてるでしょうけど、市長のやっぱり覚悟を、人材、誘致、派遣含めてどんな覚悟でしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり今我々、人材交流、行っております。そういう中で、非常にいろんな情報が早く入ったり、また早く行動ができる状況があるわけがございますので、我々といたしましても今、ご指摘の点について、これは絶対やっていかなくちゃいけないことでございますので、どういったところからというのが、やっぱり大事になってくるんだろうと思うので、今以上な、やはり広い多様性の中からという形になるわけがございますので、他の都市にない、また糸魚川市のこの特徴をしっかりと出し、いける方向で進めていきたいとは思っております。そのように、その辺の目的をやはりよく理解していただいた人を求めていると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ市長の覚悟は素晴らしいと思うんで、その辺も含めてやっていただきたい、こう思っております。

それで、DMOに必要な4つの視点があるんですね。1つ目が、カスタマー視点、ビジネス視点、プロフェッショナル視点、4つ目がサステナブル視点、ちょっと口回りませんが、サステナブル視点。この辺でやっぱりサステナブル視点というのは、ビジョンによる戦略組織のマネジメント。それとPDCAをマネジメントできるリーダーになってくるんですが、この辺のやっぱり考え、4つの視点も含めながらどう行動していくか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今の4つの視点に共通することは、いかにして組織をきちんと体質を強化してもうけられる、お客様の満足を得て糸魚川に来てみたい、行ってみたい、そして糸魚川で満足できるといったことだと思います。

つまり、いずれにしましてもお客様視点に立ったものの考え方の中で進めていきたいというように考えております。

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員の一般質問の途中ではありますが、昼食時限のため、ここで暫時休憩をいたします。再開を午後1時といたします。

午後0時01分 休憩

午後1時00分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き、会議を開きます。

昼食前に引き続き、五十嵐議員の一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

午前中ありがとうございました。

続いて、先ほどありましたが、今度は2つの共有。1つは目標の共有と情報の共有が大切だと。この2つを組み合わせると業績のアップにつながるということで、情報の共有を通じて進捗管理、これがまたプログレスコントロール、進捗管理、これを重要だと言われてるんですが、この辺も含めて、飯山観光局が70人ぐらいの体制で、この前、妙高版のDMOが設立されて、そん中で国の地方創生加速化交付金を活用して、CRM、顧客データ管理システムの導入によるデータの収集管理と個々のニーズに合った情報発信、旅行商品の造成、販売、ホームページへの誘因を促す宿泊予約サイトへの広告掲載、韓国、台湾へのプロモーションと香港旅行雑誌とのタイアップ誘致、この辺をもう国の加速化交付金でやってるんですよね。この辺の状況は、お聞きになっとるか。糸魚川版としては、どう考えているか、その辺教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

妙高市さんの状況につきましては、今、上越、妙高、糸魚川と三市連携の取り組みをしておりますので、その取り組みの内容については、お聞きいたしております。特に、予約サイトの関係では、妙高市さんがやってる事業は、糸魚川市も取り入れるような形の中で事業展開をさせていただいているところであります。

妙高市さん、今やられている、例えば韓国とか加速化交付金を使った取り組みでありますけども、糸魚川市のほうは、北アルプス日本海広域連携会議の中で、台湾からのサイクリングのお客さんをお呼びでこようという取り組みを観光庁と連携会議が連携する取り組みとして、今、進めております。秋から年末にかけては、台湾のモニターツアーというのも実施しますし、こちらから向こうに営業活動するといった形をとっております。いずれにしても、当市にとって一番やりやすい仕事を観光庁のメニューの中から選んで実行していくと、こういった体制で今後も進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

いろいろな形で上越3市で、北アルプス連携会議、それも含めて一緒にやっとなんてということなんです、やっぱり独自の糸魚川版をつくるということなんで、単独、糸魚川らしさを出すためにも必要だと思う。

そこで、大分県の日田市が観光協会改革、改革せんきゃ今の観光協会じゃだめなんです。やっぱり必要だと思っんですわ。その辺も含めてDMO並びに、その日田市の事例、おわかりでしたら。いろいろな形やっとなんてと思っんですわ、すばらしい点を学んでいって糸魚川版に取り入れていく、その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

日田市という、かつて甲子園でも戦う関係にあった市でありますけども、今、日田市は日本一の観光協会をつくり上げるんだといった中で、4年で観光協会の事業規模を3倍にするし、自主財源を6倍に拡大しようといった取り組みを、今、目標として持っているというように聞いております。その中で、日田市も何をやっていこうか、何を収入として得ていこうかという中で、広告料収入であったり、旅行手数料収入であったり、企画プロデュース料収入といったものを言っております。この目指すものは、今、糸魚川市観光協会が着地型観光を進めて旅行業をとって、旅行手数料を得ていこうといった方向と同じだということのように考えております。いずれにしましても、ほかの先進地を参考にしながら取り入れるべきものは取り入れて糸魚川の観光地づくりを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

その辺なんですよ。やっぱり糸魚川に合ってるかどうかも比べながら取り入れるものは取り入れて、日田市でイノベーション型の改革なんですよ。その辺やっぱり企画と営業を強化することで、もうけを出してるんですよ。やっぱりその辺も含めてREデザイン、デザインをして、物語性も含めて、全体的なプロデュースも必要なんです、その辺も含めて、日本一の観光協会を、先ほどおっしゃったようにつくり上げるということなんで、そのぐらいやっていただきたいなと、こう思っておりますし、地域の意識が向上して、新たな目標が、違う目標が生まれていく、可能性は観光協会が変わっていけばそうなると思う。また、地域全体が盛り上がってるもので、ぜひその辺も参考にさせていただきたいなと、こう思っております。

それと、DMC、先ほど言ったんですが、豊岡市含めて広島県の尾道市、これがやっぱり地域に

雇用を生んでるんですよね。全体でいくと100名以上の雇用を生んで、プロジェクトを何本かやっとなんですけど、その辺の尾道の参考になるような、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

尾道市は、今、しまなみ海道ということで、サイクリングスポットとして注目を浴びております。私ども今、VJ、サイクリングで台湾からお客を呼ぼうというのは、しまなみ海道、いわゆる尾道に来ているお客さんを、ぜひ糸魚川へ連れていこうといった取り組みをしているわけでありまして、その中で尾道のすばらしいところは、地域に雇用を生み出すための企業をつくっていったということだと思います。ここの部分はなかなか難しいところでありますけれども、行政のできることとして、そういった環境づくり、そういった企業ができる環境づくりをしていかなければならないというように認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めて、雇用につながるような取り組みも、観光だけでなく、それに付随した取り組みはいっぱい成り立っていくのが必要だと思うんですが、その辺も雇用を生み出すためには、商工農林水産課も含めて、産業部長どうでしょうか。その辺の点も含めて雇用が必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤隆一君登壇〕

産業部長（齊藤隆一君）

日本版DMOから、今、派生しましてのご質問だと思っておりますけれども、今回の日本版DMOそのものが非常に注目を浴びるというタイミングは、今回の地方創生というステージに上ってきたことで第一陣の認定、あるいは第二陣の認定というところに来たんだろうというふうに思っています。今、糸魚川市観光協会の話から始まっておりますけれども、やはり組織強化とか、あるいはまた旅行業の取得というところは、観光協会そのものが稼げる法人になることが、もちろん体質強化をする中でさらに稼げる法人にということを狙ってるわけでありましてけれども、やはり地方創生の言葉ではないんですけれども、雇用というところは、地方創生とは切っても切れない、そういう関係にあるというふうにも思っています。尾道市だけではありませんけれども、やはり雇用拡大、お金が回る仕組みづくりとかそういった意味では、これもDMOの中での1つの大きい課題というふうに捉えております。それぞれの市、自治体における観光協会の取り組みは違えど、糸魚川市に合った形での雇用拡大も含めた糸魚川版DMOの設立というところへ結びつけていけるように頑張っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺も含めてやっていただきたい。

それとジオパーク観光プロジェクトでやってるんですが、この前の新潟フォーラムの中で、パトリック・マッキーバーさんですか、この方もおっしゃって、ツアーガイドとアイルランドも含めて火山のストーリー、1カ月1万ユーロ、ブランディングが必要だと。地質業もやっとして、子供、地域の歴史、化石、ツーリスト、谷ストーリー、この辺の収入コース、稼げる場所が必要だと言われておりますし、そこらでいろいろやってるのを経済波及効果を生むような、やっていただきたいと、こう思ってるんですが、ジオパークも含めて全体的にどうこれからやっていこうと思ってるんでしょうか。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まさに稼げるというのが、一番のキーワードになってこようと思います。交流人口を拡大しても、ただ人が来てお金を落とさなければ地域には何も得るものがないわけですから、人も来ましたが、そして地域で消費をしてもらってお金を使ってもらおうといったことが非常に大事だと思います。議員ご指摘の部分でいえば、まさに経済波及効果、お金というものを意識しながら事業推進に当たっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ経済に波及するような、糸魚川が潤うような形にしていきたい。

それと今、産業革命と言われております。それを偶然に起こるのを待つのではなく、必然的に引き起こすように働きかけなければならないと。その中で4つのM、いろいろ言ったんですが、やっぱり4つ目のMは、マン。地域づくりは、人づくりと言われております。ぜひやっぱり人、人財、人財の財は財源の財だと思うんですね。そこを含めてやっていただきたいと思うので、その辺の全体また含めて市長いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく、やはり人であります。我々は資源を持っておる地域でございますので、それを生かす

ことが一番大切であるわけでありますが、1人、個人ではできないわけですので、やはり複数の人としっかりと連携をしながら、また企業や行政、そういったところも巻き込みながら活動しなくちゃいけないわけでありますので、リーダーが一番問われるところがございますので、そういった育成をやらなくてはいけないと思っておりますが、なかなか昔と違いまして、昔は青年団活動、婦人会活動というような形の中で、地域でそれが培ってきた部分がございます。

しかし、そういったものが今ないもんですから、なかなかそういう地域を巻き込んだり、エリアを巻き込んだり、市を巻き込むというような人材が不足しているところだろうと思っております。なるべくそういった人たちが出てくるような環境づくりをしていきたいと思っております。そのようなことがうまくいけば、素材は、また資源はあるわけがございますので、うまくいくだろうと思っております。そういったことを非常に難しい事柄であろうと思うわけですが、挑戦はしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ挑戦、やっぱりチャレンジャーをふやさないことには、企業も含めて、次にある女性の起業も含めて必要だと思う。若い方々も含めて、まさにチーム系魚川だと思うんですよ。チーム系魚川が機能してればやっぱりDMOも含めてできると思うんで、その辺も考えて市長トップにして、今、待ったなしだと思うんですよ。待ったなしで、はっけよい残った、残ったと動いとる。それに乗りながらやっていく必要があると思うんで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次、移ります。

女性の関係で、合計特殊出生率、1点教えてもらいたいのと、共働き率、それと女性の労働力率、系魚川で正社員比率、今、移住とか定住しとるんですが、転入・転出口比率、人口の推移、この3年間の人数どういう状況になつとるか、過去3年間の移住も含めてちょっと教えていただきたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

合計特殊出生率、こども課のほうから報告させていただきます。

平成26年の数値でいいますと系魚川市は、1.73であります。新潟県の平均が1.43、国の動向では1.41という数値でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

では、商工農林水産課のほうから、共働き率につきましては、就業構造基本調査にあるんですけども、今、当市のほうでは少し調査をしてませんので、全国平均では45.4%という数字を確認しております。

それから、女性の労働力率でありますけども、これは国調から持ってこられるんでありますけども、糸魚川市では平成22年に45.3%、全国平均が49.6%になっております。

それから、正社員比率の関係のご質問もいただきました。これについては、今のところデータはございませんけども、実は昨年度から雇用促進協議会にも加入をしてない企業も含めて実態調査をしておりますので、近々、今年度の調査の中には、正規・非正規を含めておりますので、今年度の調査からは、その数字が具体化されてくるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

池田市民課長。〔市民課長 池田正吾君登壇〕

市民課長（池田正吾君）

お答えします。

転入・転出入口比率であります。過去3年間ということありますので、平成25年度につきましては、転入が811、転出が1,062、比率としては転入を1としますと転出のほうは1.31。平成26年度につきましては、転入が847、転出が1,059、比率であります。転入1に対して転出が1.25。平成27年度につきましては、転入が824、転出が1,079、比率につきましては、転入が1に対して転出が1.31、そういった数字になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

移住の過去3年間のデータについてお答えいたします。

移住者自体は、私ども等で用意してる空き家バンクとかそういった制度利用の方ということに限られておりますが、この3年間で男女10名ずつの20名、転入・移住をしてきていただいております。うち職業別でいきますと農業関係が4、漁業関係が2、ほか事業主や会社員が5という状況であります。この数字は11になりますので、ちょっと差がありますけど、ほかの方は定年退職をされてこちらへ来られた方とかそういったことになります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

やっぱりデータを分析しながら、どう切り出していくか。追跡調査も含めて移住定住、女性をふやしていかないとだめだと思うんで。この28年の3月で管内就職が93人、就職予定者のうち51人が、男性が38人、女性が13人、400人ぐらい卒業しとって女性が13人しか残らない。

やっぱりこの辺はなぜ、その理由とかは把握してるのか。その後の追跡調査も含めてどう分析・検証してるのか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今までの議会からのいろんなご質問の中にもお答え申し上げてまいりましたけども、やはり事務系を希望する女子の就職のマッチングがうまくいってないところあるんだらうなというふうに捉えております。高卒以外にもやはり女性の働く場ということに関しましては、今年度から糸魚川の職業訓練校におきましても新たな講座を開きまして、出産後、仕事を見つけやすい技能をどのように身につけるかというところも新たな講座としてつくっておりますので、そのような新たな動きの中から少しでも女性の方が働ける場を確保していきたいというふう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それと女性の働き場所確保へと市役所女性職員庁内チームでいろいろな企業回ってると思うんですが、その辺の実態調査を含めて、次に何をしたらいいのか、その辺までいってるのかどうかわかりませんが、その辺の経過と今後の課題と解決方法を教えていただきたいと思います。

「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

現在、女性の働く場所確保対策プロジェクトチームということで、女性だけのチームをつくりまして会議等を開催しております。現在、5月2日に第1回会議を開いて、6月27日まで進めておりますけれども、その中ではハローワーク、それから看護学生、それから建設業の職員、介護センターの職員というところと意見交換をする中で、現状と課題の分析をする中で次のステップへということで進めております。

その中で気づきということで、糸魚川らしい働き方、自分らしく暮らすことということが、やはり幸せ感の向上につながる。それから、働く場所の魅力、そういったものを重視することも必要なんだらうと。それと、環境や体験から身近な仕事に憧れを抱いて職業を選択している人たちも結構多いというところが見えてきたところと。そういう中でやはりふるさとで夢をかなえる働き方をどういう形で見つける方向に持っていくか。それから、教育から就職、結婚、出産までのイメージというのをどういう形で描いていけるのか。そういうところを検討する中で施策にまとめていきたいということで進めております。今後、子育て支援センターに来ている方たちから少しアンケート調査も実施してみたいというふう考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

それとまた、女性活躍計画を含めて男女参画プランを今やっていると。この辺の今の進捗状況とスケジュール的にいつごろ私ら議会のほうに示されるのか、その辺のスケジュール管理はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

男女共同参画推進プランに関しましては、昨年度、男女共同参画に関する市民アンケートをとりまして、その調査結果をもとに第1回の男女共同参画、こちらのほうは外部の委員で構成される推進委員会ですけれども、それを開いてアンケートの結果について分析しております。今後、9月に第2回を開催する予定でございます。おおむね12月の市民厚生常任委員会のほうには、案というものをご提示をしたいというスケジュールで今現在、取り組んでいる最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひいいものにしていただきたいと思いますし、人口減少対策でいろいろな移住定住総合支援だとか社会減対策、いろいろな形で今年度も含めてやられと思うんですけども、その辺の検証も含めてどんな考えをお持ちなのか。来年度の予算に向けてどう考えるのか。その辺も一連だと思うんですよ。女性をどう糸魚川に残すか。それで移住女子をふやすか、その辺も含めてどういう考えなのかお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

地方創生戦略につきましては、現在、27年度の事業について検証作業を進めております。その中で次年度に向けての戦略の見直しというものを進めていきたいと考えております。やはり今の総合戦略で欠けている部分という中では、行政の取り組みというのは出してるんですけども、そのほかの市民や団体、そういったところとの、どういう形で進めていくかというのが少しわかりづらい形になってると思いますので、そういった点を整理する中で前年度の反省、それも踏まえて、また各種団体との意見交換、そういうものも含めて見直しのほうは進めていきたいと思っております。そういう中で、確かに女性の人口といいますが、そういったものが少ないというのでも出ております。そういった点では市内のプロジェクトチームの検討結果、そういったものも踏まえて次年度の予算

に向けて進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

そこなんですよね。総合戦略も含めて次年度への予算化、国は来年度に向けて動いてる。県もそうだし、糸魚川も同じ見直しして、もう今度は次年度の予算にいかんなん。この行政、市役所ばかりわかっとなんかだめなんだ。やっぱり市民団体やいろいろな団体と、これらやると、これからでないですよ。いろいろやってきたことを行政ではこうしたいからと具体策を出してキャッチボールせんなん。その辺がやっぱりないんですよ。計画ばっか立てとなんかだめなんです。具体的な案をどうすればいいのかわかりやすく早目に練っていくべきだと思うんですが、この辺も含めて6月に提案させてもらった高校生、JK、女子高校生の地域活性化プランとかいろいろな形で、今、大学生から今回プランをいただいたわけなんですけど、その辺の中で次の予算につながるようないい提案とかございましたでしょうか、いかがですかその辺は。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

お答えします。

大学生のプランの提案という内容でいきますと、最近でいけば地域の需要創造プログラムということで、大学生が市内のいろんな名所、観光地等を調査する中で着地型観光としてのメニューを大学生の視点でつくっていただくというものに取り組ませていただきました。これは大学生側としては、そういった1つの企画をつくり上げるというスキルアップを狙ったものでして、そのスキルアップの中で糸魚川市としても若者の視点による市に向けての提案がいただけるということで取り組んだものであります。

また発表会、先日ありましたけど、おおむね糸魚川、能生地域、糸魚川地域は東と西、それから青海地域と4地域に分けて、学生が手分けして5泊6日で企画書を練り上げております。この前、学生のおおむねの発表会ということであったわけですが、現在、最終的な案として取りまとめながら、これを企画運営をやっていただいたリクルートのほうで、今度は、本当の商品として成り立つかどうかまでも検証しながら最終的な提案をいただくということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

最終的にやっぱりそこですよ。商品になるような提案も含めて大学生、やっぱり女子高校生も中学生も含めてその辺も提案していただいて、糸魚川に残れるような体制っちゃ、本当に必要だと思うんです。やっぱり教育がよくなければ移住してきませんよ、移住女子が多くなりませんし。この前、6月議会でも伊藤議員からありました伊那市、その辺、高校生も使うとなればやっぱり移住

したくなるような教育をしてないとだめなんです。教育部門は今後にいたしますが、その辺の考えというのはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

佐々木教育次長。〔教育次長 佐々木繁雄君登壇〕

教育次長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃいますように女子の多くは、地元に残るといふ面からすれば学校教育、特に高校の教育というのは非常に大きなウエートを占めるというふうに思っております。特に、白嶺高校も含めてでありますけれども、やっぱりそれぞれのコースが明確になっている中で、やはり地元の企業が望むような高校生、そういうものをしっかり教育の中で植えつける必要があるというふうに思っております。そういう面からも時間は少しかかりますけれども地元の需要になるような、特に看護や介護、そういう面でも特色のあるコースの中でしっかり教育の中で植えつけてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ教育は必要だと思う。白嶺高校の魅力化も含めて、今後、高校と市がいろんな形で検討委員会を設立してやってるので、それは地方創生特別委員会でやらせていただきますが。U・J・Iターン、6月に提案させてもらった孫ターンも、小田切教授も言っていたように、これを調査研究すると言ったんですが、その辺を含めてどう考えているのか、どう調査して、全国的にはどうやってるのか含めていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

孫ターンにつきましては、大変申しわけございません。残念ながら今こういったいい取り組みとどうか、先進的にといったあたりを調査している段階でして、まだ具体的に我々のほうで、じゃあどんな取り組みをしていこうかといったところまでは至っておりません。現在、いろんなところからの調査を進めているという状況です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

調査、言うだけはただなんで、やっぱりそれに実践を伴わなければならない。だめならだめでいいんです。それは情報収集やって、次につながるような形を、収集は課長がお願いすれば全国のデ

ータがポンと返ってくるでしょう、リサーチが一番必要なだから。それはすぐやってくださいよ。

それと、きょうのNHKでやっと思った湯沢町、伊那市もそうなんですけどPR動画作製してやるという工夫、やっぱりちょうど、横澤課長でないですけど、横澤夏子を利用してPR動画ぐらいくって、その辺ぐらいを糸魚川をPRするの、大切だと思いますし、その湯沢町がやっと思った移住定住促進策、そん中で通勤補助、湯沢は新幹線通勤も含めてその辺の補助、ここだってできるような今、大学生で学生ですか、それをやってると思うんですが、その辺の通勤、こっから住んでもらって通ってもらうぐらいの助成を特に、その辺も必要だと思うんですが、やっぱりその辺まで考える必要があると思うんですが、その辺はいかがです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

PR動画につきましては、恐らく、伊那市もそうでしたが、シティプロモーションということでこういった方をターゲットに移住をしてもらうか、どういうふうにアプローチするかという中で動画をつくられた、非常にわかりやすく呼び込みやすいというか、インパクトがあって非常にいい方法だなというふうには我々のほうでも感じております。やはり移住政策とか支援策とかいろいろあるんですが、どのようにPRしていくかというのが非常に私どもとしてもテーマだなというふうに考えております。その中で、動画を含めPRのプロモーションというのが非常に大事ななと思っております。そういった中で、今ほどあった新幹線通勤とかについても、今通学のほうは支援をしておりますが、通勤についてはどうするかというのも引き続きではあるんですけど、今、研究をしないといけないねということでは考えておりますので、またその辺、今のご意見も含めて、また研究をしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

ぜひその辺、全国から収集して、募集するぐらいでもいいんでないですか、糸魚川どうすればいいかぐらいの。それに最優秀なら幾ら、金やればあれなんで、やっぱり糸魚川のコシヒカリとかいろいろな形であげられるような、そういうのも必要ではないかと、こう思っておりますし。

北陸3県、富山、石川、福井、そん中で福井モデル、福井がやっとなる世界に通用する福井モデル、女性も羽ばたく「一緒にやろう」経済、そん中でダブルインカム、皆さんご存じでしょうけど、共働き率、合計特殊出生率、いずれも全国平均を上回るとる北陸3県ですよ。それで、企業は付加価値を高めた経営により、家計に正社員雇用を提供し、家計は企業に質の高い労働を提供し、双方を高め合う好循環を構築していると。

また、行政自治体は、企業の研究開発、家計の子育てをサポートし、好循環をさらに加速させて。正社員を含めてできる、両方ですね、ダブル。両方がいい状態に持っていけるようなそういう体制が必要だと、こう思ってるんですが、そのためにも今いろいろな形で午前中にも芸術、アートの関係もあったんですが、糸魚川女性会議というのは、今、市職員だけでやっとなるんですか。やっ

ぱり企業も巻き込んで、かなり社長がおると思うんですよ、女性だけの。その辺の女性会議というの設立は、皆さんも過去、何人かやっとなんです。女性会議の設立はどう考えてますか。今こそ必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

環境生活課長（五十嵐久英君）

女性がいろいろなテーマで話し合う場というのも必要でありますし、また、大事なことからいうふうにも思います。ただ、どのようにそういうものを設立していくかも含めて、今後、どのような形ができるのか含め検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

17番（五十嵐健一郎君）

検討・研究は、言うことはただなで、ぜひ輝く女性表彰制度も含めていろいろな形で今、女性起業家をネットで支援、新聞にも載っていましたが、その辺も含めて、ここの糸魚川で起業してもらおうとかいろいろな形でやっていただけるような糸魚川にしてほしいことを願ひまして一般質問を終わります。

ありがとうございました。

議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

13番（田原 実君）

糸魚川21クラブの田原 実でございます。

今回の質問項目の定住促進と交流観光は、いずれも人口が減って糸魚川市の活力がなくなることへの対策ですが、この人口対策において、行政が単なる計画づくりの繰り返しにとどまることなく課題解決型のプロジェクトを運営して結果を出していくことを期待し、私なりの提言を交えての質問としたいと思います。

そこで、質問に入ります前に、この4月に会派政務調査で伺った島根県浜田市とその定住支援への取り組みについて概略をご紹介します。

浜田市は、島根県西部の日本海に面し、東西約46キロ、南北約21キロ、面積約690平方キロメートル。市域の大部分が丘陵地や山地で、中国山地が日本海まで迫り、その海岸線はすぐれた自然環境と天然の港をつくっています。主要河川と水資源に恵まれ、多面的機能を持つ中山間地域は、環境の保全にも大きな役割を果たしています。有名な伝統芸能、石見神楽や石州半紙などの文

化財、しまね海洋館アクアス、海水浴場、スキー場、温泉など豊かな自然と観光資源を有し、高速道路、港湾などの都市基盤や大学・美術館を初めとする教育文化施設も充実しているなど糸魚川市との共通点の多い自治体です。平成17年10月に合併し、現在の人口は5万6,210人、「住みたい住んでよかった魅力いっぱい元気な浜田」を掲げて移住定住支援策に力を入れ、町に必要な人材に都会から移住してもらい、支援するシングルペアレント介護人材育成事業は、国の評価を受け、地方創生担当大臣も現地を訪れ、テレビ・新聞に多数取り上げられましたので皆さんもご存じと思います。

また、都市交流の先進地でもあり、浜田市と合併する前の旧金城町の提唱で約30年前に始まった「カチューシャの唄」知音都市交流が今も続いており、糸魚川市議会でも、これまでさまざまな先進的な取り組みの政務調査に委員会や会派で訪れております。

では、事前に提出した発言通告書に基づき、以下質問をいたします。

1、定住促進と人口増大への対応、糸魚川市の現状と課題について。

- (1) 第2次糸魚川市総合計画における人口問題・定住促進について伺います。
- (2) 糸魚川市独自の就労支援について伺います。
- (3) 人口減少対策「婚活ふれあい支援」について伺います。
- (4) 空き家情報管理、空き家活用について伺います。
- (5) 集落サポーター、集落支援員、地域おこし協力隊等の活動について伺います。
- (6) 他市町村と比較して成果をあげていることについて伺います。
- (7) 糸魚川市の参考となる他市の取り組み、例として島根県浜田市の「はまだ暮らし（定住支援・出会い応援情報）」について伺います。

2、交流観光・都市交流と人口増大への対応、糸魚川市の現状と課題について。

- (1) 第2次糸魚川市総合計画における交流観光・都市交流について伺います。
- (2) 糸魚川市独自の観光振興、観光ツアーについて伺います。
- (3) 観光施設やジオサイトの整備・管理・運営について伺います。
- (4) 様々な体験交流、様々な都市交流について伺います。
- (5) 糸魚川出身者と一緒に進めるまちづくりについて伺います。
- (6) 北陸新幹線などを生かした人口増大策の成果について伺います。
- (7) 糸魚川世界ジオパークを生かした人口増大策の成果について伺います。

3、権現荘問題について。

- (1) 議会に提出された資料「内部監査制度による権現荘の実態調査報告書」では明らかにされていない経営実態、食材仕入れの会計処理について伺います。
- (2) 権現荘小林支配人による特別客室の使用と費用負担、特定客への接待と費用負担、館内のスナックの利用と飲食費の負担など、公の宿の私物化とも思える事態について伺います。
- (3) リスク管理を怠った行政責任について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、第2次総合計画では、30年先も持続可能なまちづくりとして人口減少対策を重点課題といたしております。昨年度、策定いたしました総合戦略を着実に推進し、移住定住対策に取り組むことによりまして年齢構成バランスの改善を図ってまいります。

2点目につきましては、就職資金貸し付けの利子補給、企業見学バスツアーや就活フェアの開催、企業の動画やホームページの作成補助、市独自の職業訓練などを行っております。

3点目につきましては、団体が企画実施をする出会い創出事業への補助、婚活セミナー等の開催、縁結びコーディネーターへの委託や結婚相談所への入会費助成を行っております。

4点目につきましては、移住者への住まいの提供のほか空き家バンクへの登録を促進し、利用したい方へのマッチングを行っております。

5点目につきましては、集落支援員は6名、地域おこし協力隊は2名で、集落の支援や地域づくりにつながる活動に取り組んでおります。集落サポーターは、高齢化率の高い集落を対象に集落の共同作業に対してボランティア活動を行うものであります。

6点目につきましては、今年度からスタートいたしました就学資金返済支援や新幹線通学支援は、本市の現状に則した事業であると思っております。

また、匠の里プロジェクト事業では、エリアを指定し、その募集であり移住者の確保、そして、その後の活動に期待を持てる事業として考えております。

7点目につきましては、浜田市の取り組みの内容と発信方法がすぐれており、参考にすべき点が多いと感じております。

2番目の1点目の交流観光につきましては、点在する観光資源を効果的に結びつけることや新たな観光商品の開発などを行うことで交流人口の拡大を図ることといたしております。都市交流につきましては、市民が主役となった多様な交流を促進していくことといたしております。

2点目につきましては、市独自の取り組みとしてジオパークを生かした観光振興を進めており、今後もツアーの作成や観光施策に取り組み、交流人口の拡大を図ってまいります。

3点目につきましては、各施設を所管する部署や関係機関、地元の管理組合などが行っております。

4点目につきましては、サケのつかみ取り体験や昼競りの見学など体験ツアーを実施いたしております。都市交流については、今後も姉妹都市、友好都市、知音都市などさまざまな交流を進めてまいります。

5点目につきましては、今後も出身者会の皆様にご協力いただきながら糸魚川市のPRなどに努めてまいります。

6点目と7点目につきましては、北陸新幹線と糸魚川世界ジオパークのすぐれた自然資源、文化資源、食の魅力等、豊富な資源を結びつけることによりまして交流人口の拡大を図っており、その結果、定住人口の増大につなげていくものと考えております。

3番目の1点目につきましては、経営実態については内部監査でおおむね調査されたものと考えております。

また、食材の会計処理につきましては、商品の発注、納入、在庫の確認、納品書と請求書のチェ

ックについては権現荘で行い、支払い手続きにつきましては能生事務所が行っております。

2点目につきましては、宿泊者の安全を確保するためにやむを得ず宿泊する際に使用していたものであります。利用者に対するサービスは、支配人の裁量でリピーターをふやすためにおもてなしの一環として行ったものであり、一定の基準が必要だったと感じております。

また、スナックの利用につきましては、1人当たり2,000円の負担でお申し込みいただいております。

3点目につきましては、さまざまな検討を行った結果、支配人については9月末までで雇用を最終することいたしました。

また、行政の管理・監督責任についても一定の段階で責任を明確にいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では、定住促進の2回目の質問です。

質問の7番に挙げた浜田市のはまだ暮らし（定住支援・出会い応援情報）と糸魚川市の定住促進の取り組みを比較してどうか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

浜田市の定住支援策、パンフレット等、私どものほうでも拝見させていただいております。非常にわかりやすく整理をされているなというのが第一印象でして、中身のそれぞれの支援制度等については、それぞれに優劣はあるんですけど、糸魚川市も割と取り組んでいると思われるものもあるというのも実感としてありました。

ただ、やはり見やすく、わかりやすく発信していくというあたり、この辺では、うちとしても浜田市のこういったPRの仕方、そういったあたりについても大いに参考にしていかなければならないというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうなんです。このパンフレットを見ると、浜田市のほうは3つの支援メニューが、子育て医療支援メニューと雇用等支援メニューと定住・U・Iターン支援メニューと3つあって、これが整理されて見やすくわかりやすいんですね。内容が具体的できめ細かい。糸魚川もやってるよというんですけども、やはりここまで整理されていないし、関係づけというものがやっぱり見えないんですね。大きな差がついたんじゃないかと思うんですよ。やっていきたいというお話ですけど、

どうやって進めますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

実は、移住支援等に、移住に関するパンフレット等も糸魚川市はつくってありまして、中身的には、どちらかという糸魚川へ来るとこんな生活できますよ、が中心になっておって、支援自体は、また別冊で調べなきゃいけないとかそういった形になっております。その辺はそれぞれのパンフレットのつくり方等、アプローチの仕方等にもよるかなと思います。

ただ、やはりわかりやすく、何となく一つ一つの事業の関連性がわかりづらいというのは、議員ご指摘のとおりかなというふうに感じております。その辺は、要は移住定住の部分が主なんですけど、定住促進課が中心になりながら各課いろいろ支援策を持ってあります。そういったものをできるだけ横に差しながら一つの、何と言いますかパッケージとして提案できるような形に、庁内で調整してつけれないかなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

浜田市は、もうそれをやったってことなんですよ。十分調査して糸魚川市も進めてください。

地方創生で国から評価を受けた定住促進のためのシングルペアレント、介護人材養成事業の資料はごらんになりましたか。都会での仕事が大変で続けにくいシングルペアレントを受け入れるプロジェクトが、ことしでもう3年目です。これと糸魚川市の政策を比較してはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

シングルペアレントの介護人材養成事業につきましては、浜田市はやはり介護関係の仕事を、人材を確保したいというものと、首都圏ではシングルペアレントが非常に経済的に大変だったりとかそういったことから、これのマッチングというかそういったことが図れるのではないかとということで今回こういった事業、大分前から取り組んでおられます。遅くはあるんですけど、我々も今回の地方創生の関連では匠の里というものをつくって一つのターゲットとターゲットエリア、そういったものを明確にした上での移住策を展開しているということで考えております。シングルペアレントについて、今後どうするかというのは、また別途、我々また庁内でいろいろ連携をとりながら考えてみたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

浜田市の取り組み、ひとり親の浜田市への転入と介護施設への勤務を支援し、定住人口を増大させる。これによってひとり親を支援し、介護人材を確保するというアイデアは、浜田市役所女性職員によるプロジェクト「チームCoCoCaLa」が、平成26年にわずか2カ月でまとめたレポート、CoCoCaLaレポートで出され、27年3月末にマスコミ報道、5月1日、募集開始、5月上旬に東京、大阪、福岡で相談会開催、7月に市内見学会、審査会を経て住宅情報の提供、保育所等の紹介、生活相談員をマンツーマンで配置し、10月に転入。そして転入後の状況を聞くために市長を交えて歓迎会を開催しました。レポートの提言もすばらしいですが、それを具体化していくプロジェクトのスピードと展開がすばらしい。この事業展開のスピード感と現場対応と、糸魚川市の動きを比べてみてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

企画立案に2カ月強ぐらいの期間でやったものが事業化されてきているということで、そのスピード感はやはり目をみはるものがあるというふうに感じております。糸魚川市でもいろんな、昨年から地方創生の総合戦略の中で市内でもいろいろ会議をしながら進めてきましたが、これほどのスピード感はなかなかなかったのかなというふうに感じております。その辺では、やはりいかに情報をみんなでかき集め、それをどうやって加工して企画にしていくかという力を求められとるのかなというふうに考えております。今回、女性の働き場所確保対策プロジェクト等、こういったもののプロジェクトができてきておる中で、新年度の事業に向けて、また我々も中心になりながら進めて、いい事業政策をつくっていければなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

話が平行線になるかもしれないけど、浜田市では、移住定住のターゲット、動機づけ、就労支援、住まいの手配、生活支援、子育て支援、地域のサポートがネットワーク化されて、それを行政がマネジメントしているが、それに比べて糸魚川市の取り組みはばらばらに見えますよね。マネジメントに差があると感じますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

今回、我々のほうでやっている匠の里もかなりスピード感を持ってやったつもりではあります。そういったところのできる限りの我々の考え、それから移住者への思いやり、そういったものを含めて進めてきているつもりであります。

ただ、いろんな事業の中で移住定住についての施策のばらばら感というのは、やはり取り組みながらどうやって組み合わせていけばいいとか、いろいろな部分でちょっと進めづらい部分もある

かなと。そういったところでは、やはり私どもの定住促進課が中心になりながらマネジメントをちゃんとしていく、コーディネートしていくということが重要だと思っております。このマネジメント力については、今ない部分として磨きをかけていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

糸魚川市の組織体制に問題はないかと、もっと言えば職員の働き方に問題はないかと私は考えましたね。糸魚川市の取り組みは何かばらばらだということは、今、課長も感じてるというお話でしたが、それをチェックし、直す組織体制になっているか。企画財政課あたりがチェックして改善を促していくべきだと思いますけどいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当課としては、計画を策定する段階、それから計画を実施する段階の実施計画、それから予算づけ、そういった中では計画の全体調整をする役割を担っております。やはりそういった作業の中で、いわゆる事業のチェック、それから連携のあり方、そういったものも担当課とヒアリングする中で話をしております。そういう形でのチェックというのは、しっかりやっているつもりではあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

では次に、糸魚川市独自の就労支援について再度伺います。

先ほど浜田市の事例を紹介しましたが、糸魚川市で必要な人材の移住定住、育成と就労支援、どんなプロジェクトを進めていくかと。匠の里という話がしきりに出てますけどね、単なる目標や構想の話じゃなくて、浜田市の事例を参考にして、私、糸魚川に移住してほしい人材といったらもっとほかにあるんじゃないかと思うけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

就労支援等については、どちらかというと、要は1次産業あたりがありますが、目につきますが、ほかに起業や創業についての支援も商工農林水産課のほうで手当てをしておったりしております。そういった中で、いま一度やはり糸魚川市でどんな人材が足りないのかというあたり、それぞれの部署において切実に感じている部分とかもあるものを、やはりそういったものに対する支援をする

制度をつくりながら、それぞれ移住のほうにつなげていくとかといったことも重要ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

重要なんですよ。浜田市の場合は、福祉の事業の人材を求めることがシングルペアレントへの支援になるという多重的な福祉施策になっているんです。では、糸魚川で今どんな方に住んで働いていただきたいかといえば、やはり医療と福祉の人材です。きょうの話を聞いて、市民部長はどう思いましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

岩崎市民部長。〔市民部長 岩崎良之君登壇〕

市民部長（岩崎良之君）

市民部とのかかわりの中では、医療技術者並びに介護従事者については、やはり人材不足ということで私どものほうでは、就学資金の貸与事業を行う中で人材の確保を求めておりまして、この貸与資金につきましては、主に高校卒業される方を意識しておりますし、また、以前、Uターン者を対象に看護師の就職準備金等の事業をしたこともございます。そのような中で、今回、浜田市のひとり親移住支援ということでシングルペアレントという発想自体、今までもなかったことから、今回、ご提案を受けまして、またいろいろ内部で検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

支援のメニューをそろえるだけじゃなくて、やっぱりプロジェクトとして進めていこうと。そらマネジメントするときに苦勞するんですよ。だけど、その苦勞がすごく大事だと思いますので、そういった取り組みでお願いしたいと思います。

それと、このはがきを今回ご紹介したいんですが、市内のバス会社の女性ドライバー募集と大型二種免許取得費用を会社で全額負担しますというものです。男女問わず公共交通等の担い手となる方に都会から移住していただくことはどうでしょうか。きょうの話を聞いて、産業部長どういうふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

公共交通の担い手については、決して男女問うものではなくて、むしろまた女性の視点というものも大切なものではないかなというふうに思っております。私、市内のバス会社ではありませんけれども、女性の大型二種免許で公共交通の担い手となっておられる方のバスにも乗車しました。とて

も運転がやっぱり違うのかなというふうに感じたときもありました。そういう視点は、とても大切だと思っていますし、その人材を外部、都会から求めるということも、今、糸魚川バスにおいては、恒常的に運転士が不足してるという現状も、私ども承知しております。そういった意味では、そういった手法もとても大事なのかなというふうにも感じておりますので、こちら辺は会社側とも十分また話をする中で、そういった求人の仕方もまたあるのではないかなというふうにも感じました。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

お願いします。私、個人的に感じるところなんですが、糸魚川の定住促進と仕事って、農業とセット、それから中山間地とセットになっていて、もっと言えば優先される地区も決まっていて、最初から根知地区のようなところへ定住する人に対しての定住促進をプロジェクトにしてるんじゃないかと。もう何年も人と予算、補助金とチャンスが集中し、プロジェクトが進んでるのは、根知地区と、あと数カ所ですよ。これどうしてですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

定住促進の部分については、やはり人口減が著しいところ、高齢化率が高いところといったところが、やはりひとつ優先的に取り組んでいきたい部分になるかということから、中山間地域に対する、要はいろんな施策等、中山間地域というかそういった高齢化率高いところ、そういったところをターゲットにしていくと中山間地域になっていくというのが一つの流れだと思ってます。なおかつ中山間地域にいきますと、やはり農地、本当は林地もあるとは思んですが、そういったところの保全も一つ絡んでくる。そういったあたりに早く手を打たないと地区自体の存続が危ぶまれるといった事態もあることから、そういったところに事業が展開されていることが多いというふうに捉えております。決して、優先地区をどこと、どここの地区が優先といったところで事業を始めているものではありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足させていただきますが、私は根知に住んでるから根知というように指摘されてるようなところがございしますが、決してそうではございません。要するに、やはり地域をどのように進めていくかという地域づくりプランのできたところから行政と連携をとっていきますよというのが、冒頭に話をさせていただいております。そしてまた、今回の匠の里の構想につきましては、やはり今入っていただきたい方々だけではなくて、その地域に潜在的な資源があるのかどうか、そういった形の中でそういった匠の皆様方が5人もいるというのが、地域の中でトップだったわけでございます。

ただ、だからそれでやるということではなくて地域の皆様方にもお計らいをして、そういった人たちが入ってきてどうなのかということも地域に投げかけながら進めてまいっておるわけでございまして、そこで、もし断られたとしたら、また違う地域を探していく。また次にはどういった資源が、そういった人たちがおられるかということも調査をしながら進めてまいった事業でございます。たまたまそういったことがあったかもしれませんが、そういう段階を踏みながら、今、進めさせていただいておりますし、今ほかのところでも地域づくりプランができたところから連携をさせていただいているのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

市長答弁に違うとは言えないですけど、根知がモデルとなって、私、市全体が振興するというのを期待したんですよ。私が住む市街地との経済的な人的な関係、そういったものが今の形では見えないし、やっぱり根知地区だけは30年後も存続しますみたいなプロジェクトがめじろ押しですよ。新聞報道もそうでしょう。これやっぱり市長と担当課長が根知だからだというふうに勘ぐらざるを得ません。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

たまたま課長はなっただけですし、地域づくりプランは以前から進めてまいってきたわけでございます。それは、もう合併した当時から我々は総合計画、そして実施計画、そして各地域への地域づくり的なものについては、進めてきておるわけでございますし、地域の皆様方は地域としてどう将来を考えていくかという地域づくりプランを進めていくという方針はずっと前からであるわけでございますので、ご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

熱心に取り組む地域に支援していこうという理屈はわかるんですね。

しかし、選ばれた地域と選ばれない地域という格差を市民が感じるような地域振興策をこのまま続けていけば市民の中に違和感が出てきますよ。糸魚川の市街地の地区では、行政の今の進め方に期待する人は少ないですよ。区長さんたちは、要望を聞いてもらえないと困るから黙ってるだけなんです。新しい総合計画の住民説明会を開いても誰も来ないんですよ、だから。総合計画の住民説明会の状況、どうだったか説明していただけますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

総合計画の住民説明会については、能生、糸魚川、青海、夜間も含めて4回実施しております。出席した数は合計で20名ということで、さらにその出席者は市の職員がほとんどということで、想定した参加より非常に悪い結果ということで、そういったことを考えると、こういった説明会のあり方、参加者をどう集めるか、そういったところについては、やはりもう一工夫必要なんだと思います。ただ、そのほかにもいろんな団体からご意見を聞いたり、審議会も当然、開いておりますし、地域審議会にもかけてるということで、いろんな方の意見を聞くというのは、非常に重要だと思っております。

また、この経験というのを、今度は総合計画ができ上がった後の住民説明のほうに生かしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

補足をさせていただきます。

各地域へ出向く行政懇談会がございます。そういう中において、私もこの説明をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

よく会議やりますよね。それで、人口が減ります、計画をつくり、ワークショップをしますと。その中で、やれミッションだ、キーパーソンだと、リーダーだ、地元の熱意だと。それは役所ベースの地域づくりのスキームを繰り返してるだけで、各地区プロジェクトを進めることに親身になっているか疑問だという声があるんですね。例えば能生の上南地区以外の徳合、仙納、筒石、大洞、藤崎、百川の磯部6地区の取り組み、上南地区のように地域に入ってプロジェクトが進むように取り組んでいますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

現在の、やはり人口が減り続けていく、それを手を打っていかねばいけませんけど、減っていくことは事実として予測されることです。そういったものに対する計画づくりということで、現在、地域づくりプラン、我々のほうで一生懸命進めておるわけで、今回、今年度入って5月からになります、地区懇談会を開催させております。現在のところ19カ所で開催をしております、おおむね大体、平均で20から30人ぐらいの地元の皆さんが来ていただいている。その中で何をや

るかという、これから皆さんの地区の人口は、こんななりますよというのを示しながら、このときは人口回帰1%ということで、人口の1%を毎年取り戻すと、地区は存続できますよというような一つのプラン、参考例を見せながら、人口が減っていても集落や地区が成り立っていく、皆さんの生活や今のサービスを、水準を確保するには、こんな方法もありますねという全国的な中で好事例を紹介させていただいております。そういった話し合いの中で自分たちの地区での課題、そういったものを気づいていただく。そこから、じゃあ自分たちでどんな地区にしていこうかといったことを考えていただくということで、現在、その地区懇談会を進めておりますし、今後、第3弾で地域づくりプランやってみませんかという投げかけになるような形で、地区懇談会もまたしかけていきたいというふうに考えております。

それから、今ほどお話がありました磯部6地区につきましては、今回、要は地域づくりプランのモデル地区として、特に話し合いを促進するためにファシリテーターを業務委託で導入しまして、そこでワークショップを進めながら各地区の課題の整理や、それに向かってどんなことができるのかといった計画づくりを今お手伝いしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

いいですけどね、ワンパターンのワンスキームなんですよ。それで、6地区の代表者集まっていたいて意見聞きましたと。課題整理した、いいですよ。だけど、徳合、仙納、筒石、大洞、藤崎、百川それぞれのやっぱり地域性もあるでしょう。そこに住んでる人たちの思いというのが、まだあるはずなんです。そういったものを十分吸い上げてないというふうに、私には見てとれるんですね。そういったことをこれから気をつけていただきたい。お願いしてます。

それと前から言ってますけど、押上駅周辺のまちづくりについてはどうですか。プロジェクトとして進めていますか。残念ながら何も進んでいないじゃないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

新駅設置についてなかなか見えてこないというお話でございますが、ことしに入って5月に押上地区役員の皆さんが、市役所に来ていただいているとお話をさせていただいております。また6月には、押上地区の皆さんからお招きを預かりまして、新駅について出前講座を開催してさまざまなご意見をいただいております。

新駅設置、あるいは駅周辺のまちづくりということに関しましては、都市計画としての位置づけが、まず第一に必要となってきております。そんな中で、建設課としましては、この4月に糸魚川市地域公共交通協議会を立ち上げまして、1年をかけて地域公共交通網形成計画を策定中でございます。

また、今年度と来年度にかけまして、立地適正化計画を策定することにしておりまして、現在、

事務を進めているところでございます。ハード面では、この2つの計画をもとに新駅整備と新駅周辺のまちづくりについて検討する必要があります。

また、今後、ソフト面では、まちづくりということで定住促進課とともに地域の皆さんとも協議を重ねながら検討を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

議会で聞く場がなかったから、我々ちょっとわかんなかったかもしれませんが、地域づくりは住民がみずから主体となって進めることが前提ですが、行政の事務や予算のことはわかりません。だから、いつまでに何をやるということが決められずに、そのうち住民のモチベーションが下がったり、リーダーがかわったりして時間が過ぎて年をとり、疲労感だけが残り、人は減り、町の活気がなくなっていくという、このパターンの繰り返しからの脱却のために、私は集落支援員、それから地域おこし協力隊があると思いますが、これら現在の活動と成果について、改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

齊藤定住促進課長。〔定住促進課長 齊藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（齊藤喜代志君）

集落支援員は、現在、最新で7名、今、配置されております。地域おこし協力隊は、2名なんですけど、10月からもう1名ふえて3名になる予定になっております。どちらも中山間地域への配置ということになりますけど、やはりなかなか地域の皆さんの声、我々、地域担当とかというのがあるんですけど、なかなか拾い切れない部分もありますので、そういった声を、要は拾っていただいて、今度は施策に展開できるものはないかとか、困ったことがあれば、それは所管のほうへしっかりとつないで対応してもらおうとか、そういったことを集落支援員ではやっております。

それから、地域おこし協力隊につきましては、地域でどんなことをやって、元気になっていくんだというあたりが非常に大切でして、それらのお手伝いを協力隊員がやってくと。この協力隊員は、移住者に来ていただいて3年間、地域の活動支援をしていただくという中で定住につなげていくというものでありまして、定住につなげていくという部分も非常に大事だと考えておりますし、それと合わせて地域の活性化、それが隊員のなりわいにつながれば一番いいわけですけど、そういったものを模索しながら現在、活動しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そうなんですけど、地域の困っていることの解決には、これまでは地区公民館の働きが大きかったものが、公民館体制見直しで不便になったと。そして、集落サポーター、集落支援員、地域おこ

し協力隊では、そのフォローになっていないと、何とかならないかという声を、私聞いております。そのことを担当課がどう受けとめ、解決しようとしているかということなんですね。これは、今は定住促進課の課長、少しお話しいただきましたけども、やはり問題解決につながっていかないという地元の声はまずいですよね。それで、これ公民館ということなんですけど、生涯学習課、それから企画財政課、それぞれどういうふうにお考えですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

お答えします。

平成28年度からになります。公民館体制というものが新体制で本格導入ということになっております。これまでもう半年経過しておりますので、公民館の活動の状況は、しっかりと把握はしていかなくちゃならないというふうを考えております。

また、あと地区公民館、公民館活動に加えまして、新たなといいますか地域課題というものにつきましては、なかなか生涯学習サイドではちょっと難しいのかなというのがありますので、定住促進課ですとか関係する課との連携をとりながら、そういったものには対応していかなくちゃならないなというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

公民館制度の改革につきましては、3地域のそれぞれ違う制度、それを1本化する中で現在の状況になったものと考えております。議員の言われている地域での困ったことというのがどういうことを指すのかよくわかりませんが、現状においてもやはり公民館と連携したり、それから行政懇談会があったり、地区の要望があったり、いろんな形で要望を受けとめておりますし、また、担当各課においてもそういう相談が来れば真摯に対応してるものと思っております。

ただ、そういう中でやはり地元として一番難しいのは、どこに相談したらいいのかなかなかわからないという、そういう現状があったことから地域振興係が全ての窓口になって、いわゆる庁内の取り次ぎをするというのが現在の形だと思っておりますので、もし各地区で困っていると、どこに相談していいかわからないというような声があったら、ぜひ定住促進課のほうへ話をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

今ほどの公民館等との連携ですけど、特に集落支援員については、その活動の1つの地区での拠点は、やはり公民館がベースになってくると。そこを拠点に各集落回ったりしている実態がありま

す。今回もやはり広範囲のエリアを担当している公民館等については、文書配布だけでも結構大変だというお話もお伺いしておりますし、そういったことを集落を回りながら、そういったことは支援員でもできるよねというようなことで、そういったサポートとかもさせていただいています。

あといろんな集落回るときに、個人個人でいろいろ問題やこんなことがあって困ってるんだというお話伺ってくることも支援員はあります。それらは公民館へ通じたり、我々のところへ報告をいただき、対応していくという流れをつくって、できるだけ地区の皆様方の困り事に対してそういった形での支援をしていければというふうに考えております。

それから、先ほど私、集落支援員7名と申しましたが、今、1名募集中の部分も含めておまして、現在、配置されているのは6名、もう1名募集中で最終的には7名を予定しているということでもあります。大変失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、3課長から答弁もらいましたけど、例えばこの場でいくとどこに聞いたらいいかかわらないと、それぞれ話してるんで、もうそれ1つだけじゃらばらじゃないですか。この連携のできていないことの課題解決、誰がトップになって当たっていくんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今の定住促進の話やら地域づくりの話をお田原議員からいただいておりますけれども、そういう部分でのワンストップ窓口、あるいは地域づくりのコーディネーター役というのは、先ほど来、話がありましたが、定住促進課が担うということで27年度からそのような形で定住促進課を配置したところでございます。

また、それら施策の総合的な企画調整、これについては企画財政課が、その全体的な企画あるいは調整に当たるということであります。

したがって、庁内いろんな課にわたるわけでございますが、総務部がそれらの全体のコーディネーター役を果たしていくということになります。したがって、その役目は、私ということになるかと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

まだその調整ができてないんでしょ。公民館の運営だから生涯学習課だという。そういう感覚が、まだ各地区集落の中にはあるんじゃないですかね。だから、公民館の運営だから生涯学習課というようなものがもう変わったのであれば、今度は総務部で各地区の問題解決に当たるということをも

っとちゃんと整理してやるべきだと思います。だから、どうなんでしょうね、組織の中どういう形になるかわからないけど、やはり総務部で統括的に見ていくんだというふうにすっきりしたほうがいいんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

地区公民館の地域づくりにおける拠点の役割というのが重要なところであろうかと思っております。そういう部分において、現在、地区公民館の所管は、教育委員会におかれておりますけれども、組織の全体的な見直し等の中で今後の一つの課題なのかなと。現時点においては、それぞれ連携をとりながら進めておりますけれども、なかなか市民の皆さんから見てもわかりにくいというような点が耳にすることもございますので、その点については、今後、組織見直しの中で課題として検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

耳にしてたんだったら早くやりましょう。

それでは最後に、婚活ふれあい支援についても伺います。

私は糸魚川出身の横澤夏子さんが新潟県婚活応援大使に任命されていること。それから能生の弁天岩が最近、恋する灯台に認定されたこと。また、いといがわバル街が人気で男女の出会いの場になってくれそうなこと。これらが糸魚川の婚活ふれあい支援に生かせないかというふうに思いますけどもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤定住促進課長。〔定住促進課長 斉藤喜代志君登壇〕

定住促進課長（斉藤喜代志君）

ご提案ありがとうございます。

横澤夏子さんにつきましては、非常に今、人気があって、これも新年度事業に向けてなんですけど、我々のほうでも何とか夏子さんの力を借りて婚活事業を盛り上げられないかなというのは、考えていきたいなと思っておったところです。新潟婚活大使にも任命されたことですし、県ともちょっと連携しながらという手もあるのかなというふうに考えております。大いに有効な手となるように横澤さんにいろいろお願いできればというふうに考えておりますし、恋する灯台についても非常にいいイメージが、あそこの弁天岩のところにできたなということで、これを大いに活用していけばいいなと。これは婚活のこれからのハッピー出会い創出事業とかそういったものの中で、あそこをステージにしてというようなことも考えられるでしょうし、こういったあたりについてもまた工夫をしていければなというふうに思っております。

それから、いといがわバル街については、要は市の行政で主体になっているものではありません

けど、非常に人気があって、若者の交流の場としては非常にすばらしいなというふうに感じております。これらあたりも、何ができるかあたりは、また今後、考えていかなきゃいけない部分があるかと思いますが、こういったものに近いようなものを、また今回リバイバル25の同級会でも少し、ミニなんですけどちょっとやらせていただいたりしております。非常に参考になりましたので、こういったあたりもまた参考にしながら、なかなか成果が上がってこないのが今の婚活ふれあい支援なので、こういったものをひとついいきっかけにして成果を上げていけるような施策にしていきたいというふうに考えております。

ありがとうございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

1つのプロジェクトとして、それはやっぱり行政がマネジメントしていく、そういうふうにして早く進めてください。

それでは、次の交流観光、都市交流について伺います。

ここでも横澤夏子さんと恋する灯台の人気を生かして、交流人口をふやすプロジェクトというものを提言したいと思いますが、その実施について担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

このたび日本ロマンチスト協会が、能生の灯台を恋する灯台ということで認定いただいたわけです。今後でありますけども、ロマンチスト協会のほうでは、この灯台をどのようにして観光資源としていくかを地元の方々とワークショップを行いながら検討していきたいというように話されております。市としてもそこに積極的に参画する中で、横澤夏子さんの活躍する場面あるいはお願いする場面についても検討の中にも入ってくるものだというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

素材はそろったんですね。しかも人を呼べるイベントが計画できそうですね。だったらすぐにプロジェクト立ち上げて、実行して評価していかないと、例えばことし中に企画を終了し、来春、予算が通ったら4月にはイベントを告知する。夏の能生の花火大会のときに、かつてないほどの人が、わんさか能生に来ましたと。地元はもうかりましたという流れのプロジェクトじゃないとやる意味がないと思います。恋する灯台にあやかって言うんじゃないですが、恋にも観光にも旬があると私思うんですね。課長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員おっしゃるとおり観光には旬があるというように思っております。当課としましては、ともかく特に観光ということで、スピード感を持ってやっていかなければならないというように考えております。

ただ、今回の取り組みについてロマンチスト協会は、先ほど申し上げましたように地元の方々ということがありますし、地元が盛り上がらなとなかなか長続きしないというようなことをおっしゃってます。ということで多くの意見を聞きながら、議員おっしゃるようにスピード感を持ちながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

恋と一緒に熱が冷めないように、ひとつスピーディに取り組んでください。

次に、都市交流について伺います。

糸魚川市と交流している先で観光に力を入れているところ、潤っているところ、たくさんの方が来てくれそうなどころはどこか、分析・検討してありますか。これ、切りがないので、今の話、もし能生の恋する灯台を使用し、交流するとしたらということにしますか。能生といえば海、シーサイドです。となるとターゲットは、まず長野県ですか。議会で交流している小谷、白馬、大町、ここは四季を通じて観光客が多いところです。

しかし、観光でつなぐ取り組みは、これまで弱かった。観光行政、さぼってたんじゃないのかというぐらいやってきませんでした。最近ようやく動き出しました。今後、糸魚川への客の流れをつくるプロジェクト、あれば伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、議員ご指摘の小谷、白馬、大町ということですが、私ども交流観光課のほうでも北アルプス日本海広域観光連携会議といった組織を設置する中で、この3市、村には入っていただいております。ここが土台になってくるかというように考えております。こうした中で、まさにその違いといえば、今のご指摘のあるように山と海ということだと思っております。特に今、白馬から糸魚川へ、昨年といいますかこの冬、J.C.の皆さんがシャトルバスを運行しました。私どももそれに協力させていただいたわけですが、これを継続実施、協力していくといったほかに、今週になりますけども、北アルプス日本海広域観光連携会議の中で関西の旅行社をターゲットとしたモニターツアーを、今週、

実施いたします。この中でもやはり山と海というのをモチーフにしてやっていこうと考えておりますし、あと台湾からの自転車の愛好家を招くといった取り組みも新たに進めていこうというように考えておりますが、いずれにしても山と海というのをキーワードにしながら観光誘客を進めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、お話出ました北アルプス日本海広域観光連携会議、ここでPR動画というのをつくったと思います。私これユーチューブで見ました。そして何とこちらにも横澤夏子さんが出演して、各地の魅力を発信していい感じですが、この動画を私は見てシェアしたのは、8月23日。そのとき閲覧した人は、まだ100名程度でした。このユーチューブのものが夏休みに向けてつくられたとしたら完全にタイミングを外したと思いますけども、なぜそうなったのか、また、これ幾らぐらい費用がかかってつくったのか、そこら辺少し事情を説明してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、まさに夏向けにということで制作しております。私ども市長が定例の記者懇談会というのを、毎年、実施しております。7月の場合、14日の日に記者懇談会やりました。この席でプレスの皆様、きょうから動画を公開するよということでご案内をさせていただいております。この結果、糸西タイムス等に掲載がされたところであります。アップ数なんですけども、100回ということなんですけども、7月16日にアップした後、再生のふぐあい等が生じた関係で、一旦リセットしてまた戻っていったといった形で若干少なくなったのかなというような気もしております。

ただ、私ども、糸魚川市観光協会あるいはジオパーク協議会でフェイスブックを持っております。3月に横澤夏子さんを観光営業主任ということで任命させていただきました。そのときのフェイスブックのリーチ数ですが、糸魚川市観光協会は、3万件を超えております。また、ジオパーク協議会も2万件を超えております。それに対して少し丸が幾つかは少ないといった状況でありますので、そのあたりを検証する中で、同じ手法で宣伝をさせていただいたんですけども、なかなか見ていただけなかったということについては、検証しながら、また対応を考えていきたいと思っております。

予算でございますが、6本、それぞれの市町村別につくっておりますして75万円となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今、人気でまさに旬の横澤夏子さんなんですけど、夏子さんを主人公にシリーズ化しておもしろ

い内容にしたら多くの横澤夏子ファンがこの地を訪れてくれると、私そう思うからこそ、今ここで話をしております。観光には旬があるということなので、この取り組みもスピード感を持ってやっていただきたい。そのことを理解していただきたいと思うわけです。

さて、長野県では、ほかに松本市、そして塩尻市、諏訪市とそれぞれ違うテーマで現在、都市交流をしていますが、伺いたいのは、この今までやってきたテーマを見直す必要性はないか。それから、どのようにつながっていったのかというプロセスを住民同士が理解するということが大切ではないかと。そして、これが目的になりますけれども、糸魚川に継続的に人を呼び込む、そして経済効果を出すと、そういったことをプロジェクトとして進めていく、そういったことの必要性を感じるんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

松本市とは地域高規格道路、そして塩の道というつながりがございますし、諏訪については、建御名方命に始まります奴奈川姫の話といったつながり、さらに塩尻につきましても、旧糸魚川市以来、姉妹都市交流というものを進めております。ことしは塩尻市の職員が、糸魚川市の交流観光課に来て仕事をするといった人事交流も行っております。

こうした中で、やっぱりご指摘のとおり住民の理解が必要だというように思っております。こういった取り組みを、機会を捉えて市民周知をしていきたいというように考えておりますが、プロジェクトということでは、今までのこういった取り組みを生かす中でどうやってやっていけばいいか、特に、松本、塩尻、諏訪というのは、まさに山のほうでありますんで、先ほど申し上げましたように山と海を生かして日本海の魚、日本海の食といったものをPRする中で糸魚川にお越しいただいて、糸魚川でお金を使っていくといった取り組みを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

相手先もあって大変だと思いますけど、やっぱりプロジェクトにしてどうやって糸魚川に、あるいは先方のほうに行くということでもいいです。経済効果を出していくか、そのことをプロジェクトにしていけないと、幾ら地域高規格道路のフォーラムとかやっても人が来ないと思うんですよね。そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

稼ぐ観光ということでは、議員ご指摘のように、さらに一歩進めていかなければならないと思っ

ております。こういった稼ぐ観光という視点の中で広域連携会議使ったり、あるいは地域高規格道路の協議会を使ったり、さまざまところを使いながらやっていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

これも長野県なんですけど、長野市松代、それから中野市とは、「カチューシャの唄」知音都市交流ということをやっておりますが、この交流の効果についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ことし中野市の皆さんなんですが、初めて能生の花火大会を見に来られました。ということで、交流が深まれば深まるほど、また新たな交流ができていっているというように感じております。そうした中で浜田市のほうからは、農産物の特産品の開発等で連携をしていかないかと、こんな話もあります。交流を深める中で先ほど申しあげました稼ぐ、いわゆるお金が回るような交流につながっていくように努めてまいりたいというように考えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私、思うんですが、知音都市交流に東京を加えたいですね。東京といっても広いですからどこかといえば、これは早稲田大学です。早稲田大学を「カチューシャの唄」知音都市交流の東京の拠点とする交流で糸魚川の知名度を上げ、糸魚川に誘客し、また稼ぐと。そういったことをプロジェクトとして、これから進めていただきたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

御風顕彰という点から、私のほうからお答えさせていただきます。

早稲田大学と糸魚川市は、社会連携プログラムですとか、先般の教務部との協定の締結などによりまして、関係・連携が深まってきている状況と捉えておりまして、御風顕彰を進めるチャンスでもあるというふうに感じております。

また、今月下旬には、キャンパスを会場とした大学周辺商店街主催のイベントに知音都市交流有志の方がブースを構え、御風と糸魚川をPRするというふうに向っております。相馬御風の認識度アップ、糸魚川の知名度アップにつながる動きとして捉えております。

このような状況を踏まえまして、まず知音4都市の交流に早稲田大学からも何らかの形でかわりを持っていただくということを念頭に置きながら、今後、大学などと連携醸成しつつ御風顕彰やPRを進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

結構なことだと思います。それで、都市交流で糸魚川にたくさんの方が来てくれそうな相手先、場所としては、東京、横浜、首都圏エリアまだまだ未開拓だと思います。これまで糸魚川市は、首都圏での知名度を上げる努力や新幹線などを使って来てもらおう努力を当然してきたと思いますが、この機会にその成果について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

首都圏の知名度を上げるといったことでチラシという形ではございませんけども、糸魚川という文字を書いて読めますかという、ちょっと自虐的なパンフレットもつくったことがあります。いずれにしても注目を浴びることが大事ということで、そんな情報発信をしておりますが、実際の活動としては、なりわいネットワークによる特産品の販売、それから、市とか観光事業者の連携などによる観光PRといったものもやっております。首都圏では、埼玉県で海の、海水浴のPRなどをやっております。

また8月、先月であります、東京都北区のバレーボールの交流、約30名の方が北区バレーボール連盟ということでお越しいただきました。1泊2日で宿泊も伴ってということで、お金を落とさせていただいたわけではありますが、こういった取り組みを進める中で東京というとなかなか大きな海でありますけども、その海の中でターゲットを絞りながら誘客に努めてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

今の北区とのバレーボールの交流について、かかわった担当課の方、どんな様子だったかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

お答えします。

8月7日でありますけども、東京都北区のバレーボール連盟の皆様と糸魚川市の体育協会のバレーボール協会の皆様との交流を初めて開催させていただきました。当日はバレーということで、今回、初めての企画で開催させていただきましたけども、非常に白熱したゲーム展開であったのかなというふうに思います。時間のほうもちょっと延長するぐらいのところもありましたし、あと参加していただいた皆様からも非常にご好評のほうをいただいたというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ただ、それが糸魚川に経済効果があったのかとか、それから今後つながっていくのかというところが大事なんですけども、そこら辺についてはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 渡辺孝志君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（渡辺孝志君）

今回の交流でありますけども、確かに首都圏からおいでいただいておりますので、1泊2日の宿泊がついているという点と、あと観光もセットになっているということで、非常に当市にとりましては、交流という形で経済効果のほうもあったのかなというふうに思っております。こういった点を通しまして、今回は向こうから来ていただいておりますが、これから相互に発展できればいいものというふうに期待をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

もう1つ伺いたいんですけど、墨田区の押上と糸魚川の押上との地名交流、これに海洋高校の紹介をしたといったところで、いろんなところに広がる可能性があります。墨田区の議員の皆さんも視察に来たんですけど、これからこういったもんでどういうふうに発展していくのかということですよ。何かプロジェクトとして考えていただきたいと思っておりますけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

押上つながりということで、民間同士でのおつき合いが、これで4年目になるんでしょうか、私も、おとしし634サミットに参加をさせていただきました。昨年は、海洋高校の生徒が、そのサミットに参加をして、プレゼンをし、賞をもらったということもお聞きしております。

また、ことしのご案内もいただいているようでありますけども、日本の胃袋の中心地でありますので、糸魚川の食材をおいしいものをPRするには、非常に絶好のチャンスだということで、当課

におきましても4年前から墨田地区とおつき合いをさせていただいてきております。今後もやはりそのつながりは、大事にしていかなきゃならんと思っておりますし、ことしのご案内もいただいております。それがやはり最終的には、民間同士のつながりで経済効果につながっていくようなことを期待して商工農林水産課としてもご支援申し上げていきたいという考え方でおります。

いま一点、東京の中で糸魚川という知名度をとということでございますけども、なりわいネットワークを通じて41店舗おつき合いいただけるお店ができて、その中でやはり大きな居酒屋チェーンが3組入っておりますので、その中でもしっかりと糸魚川の情報発信をしていける土壌ができていますので、それをますます今後、使いながら経済効果が高まるように支援していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

私が今回どうして詳細に相手先を、例えば東京の北区だとか押上だとか墨田区だって、そういうものを出して話してるかということなんですけど、民間同士はつながっていけるんですよ。それで、必要がなくなればそれまでということもなるかもしれない。逆に行政のほうは、交流が始まってしまえば、なかなかやめるにやめられんこともあるかもしれない。

ただ、やはり確かな交流というものを進めていくには、公のお墨つきみたいなものも必要なんですよね。それで、新しい形で都市交流というものに対して行政のほうから、より柔軟に考えて取り組んでいただきたいのと、こう思うんですけど、そこらあたりはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

行政が継続的に取り組むといった場合には、どうしてもそういった取り組みが市民の理解を得て、市民の多くがやってもいいよというところが必要だと思っております。ですので、民間交流が深まる中で、行政としてタイミングを見ながら応援していくという形になるかというように思っております。

ただ、いずれにしても交流というのは、非常に大事なキーワードでありますし、そういった交流が持続可能な部分というのは、非常に高いわけですので、私ども適宜サポートなりをしまいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

その部分よろしくお願ひしたいと思います。

それで、次の質問ですが、このように首都圏との交流が進んで、糸魚川への観光客がふえるとい

う前提で、首都圏から糸魚川に来てくださるお客様をターゲットにしたプロジェクトの中で、私が注目しているのが、糸魚川駅発着の半日観光バスです。夏のシーズンが終わったばかりですみませんが、このコースで見ることができるポイント、観光ガイド、利用状況やお客様からの反響がまとまっていれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

6月から8月まで糸魚川駅を発着ということで、玉翠園・谷村美術館、フォッサマグナミュージアム、そしてマリンドリーム能生といったところを回らせていただきました。期間中の土曜、日曜、祝日運行でありましたが、11日間運行しまして47人の利用がございました。

ガイドにつきましては、ジオパーク観光ガイドが実施しております。

利用者の声ということではありますが、実際にお客様からは、えりすぐりのコースであり、安くて利用しやすいといった声があったということです。これまでは定期観光バスということで丸1日を使う形を進めてきましたけども、試験的にやってみる中では、声としてはよかったのかなというように理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ちょっと利用者が少なかったようですが、市内を手軽に見て回ることができて、かつ満足度が高い観光の目玉となるように、このコースをブラッシュアップしてほしいと思います。

そこで伺いますが、新幹線駅の近くは、魅力的な飲食エリアになっていますか。これあくまで観光客目線で捉えてどうかお答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

新幹線開業して、お昼、ランチを出す店がふえております。また、今、おみちよう御膳といった取り組みもありますけども、観光客目線という視点でいうと、まだ情報がきちんと伝わっていないのかな、情報の発信に課題があるかなというようなことも感じております。こうしたことで、いろんな皆様のご意見を聞く中で、どうやれば観光客にもっと情報が伝わるかといったことについてブラッシュアップしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番(田原 実君)

次に、この観光ガイドはちゃんとしていますか。以前、定期観光バスに、私、試乗したときに、ガイドさんが谷村美術館でユニークな解説をしてる場面に遭遇をしました。これまでも気にはなっていたのですが、建物のイメージをシルクロード風と言っておきながら、最後はモアイ像をかたどった建物ですと、こういうお話だったんです。もしここに、建築家村野藤吾や谷村美術館建築に詳しいお客さんがいたらどう思っただろうかなと。誤解を受けるようなことを心配して、そのことを担当課に伝えましたが、その後、どうなりましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長(渡辺成剛君)

お答えします。

ご指摘のガイドの件につきましては、ご指摘をいただいてから直ちにガイドの皆さんを集めて研修会をさせていただいております。いずれにしましても、お客様は谷村美術館というところで美術館、そして美術品を見に来るという目的を持っております。それと逸脱したような話があると、それは興味のある方にとってはいいわけですが、お客様によっては不快な思いをされるといった点もあるかと思しますので、いずれにしましてもガイドの皆さんには、ご指摘の分を含めながら、お客様本位でガイドするようというのを伝えさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

田原議員。

13番(田原 実君)

事実からかけ離れたことを地元のガイドさんが話をしたんでは、糸魚川の1級の観光施設の価値が下がるんじゃないかと。磨かれるところが曇ってしまうということを考えまして、あえてお話をさせていただきました。

さて、糸魚川市の1級の観光施設ということで、もう一つ、私、今注目のえちごトキめき鉄道リゾート列車「雪月花」、この活用についても今回ぜひ伺いたいと思うんですね。この列車のデザインが今、国際的な評価を得ているんですが、担当課はご存じですか。また、これどう生かしていくかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(倉又 稔君)

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長(見辺 太君)

お答えします。

「雪月花」のデザインにつきましては、国内外の多くのマスメディアに取り上げられて注目をされとるということを承知しております。いろんな国際的評価いろいろございますが、特に「雪月花」のデザインにつきましては、国際デザインアワードの最終審査においてファイナリストに選ばれてるというふうにお聞きしております。今後の「雪月花」の活用につきましては、今現在は、え

ちごトキめき鉄道の中で運行をしておりますけれども、先日、少しえちごトキめき鉄道のほうからも情報があって、隣接他社線への乗り入れについても積極的に検討していきたいというふうな報道があったところでございます。市としまして、特に大系線への乗り入れについて積極的にPRしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

この糸魚川エリアを世界が評価したデザインのリゾート列車を使ってめぐるツアー、ここに一流の建築と一流の彫刻がコラボした谷村美術館を組み合わせれば、プレミアムな旅行商品の目玉になると思うんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

今週、関西の旅行社ということで大手の旅行会社、JTB、日本旅行を含めた旅行社の皆さんがモニターツアーにお越しいただきます。この中では、「雪月花」に乗っていただいて、上越から乗って能生でおりるといったコースを今、設定しております。この中では、北アルプス日本海広域観光連携会議でやる関係で、海と山ということで谷村美術館等は入っておりませんが、先ほど申し上げました半日観光バスは、JR西日本さんとの話の中で生まれております。JR西日本さんのほうの中では、「雪月花」が非常に誘客としてはいいよねといった話、そして、今の半日観光の谷村美術館等を使わせていただいておりますので、今後の展開として1級の価値といったことでプレミアムな旅行という中でPRに努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

「雪月花」をデザインした川西康之さんという建築家でデザイナーの方なんですけど、この方をフェイスブックで知ったんですね。実は、この土曜日に、私、糸魚川で川西さんとお会いして、お話をいろいろ伺いました。そうすると2泊3日で20万とか30万とかという旅行商品が、今、売り出されるんだそうで、その中に糸魚川では谷村美術館、ちゃんとコースに入ってるんだそうです。そのことは、まだ聞かれてませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

他のツアーにつきましては、谷村美術館から聞いておりますが、今の件については、まだ聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

谷村美術館というものが、また再評価を受けて、この「雪月花」が有名になって糸魚川が有名になって美術館が有名になると、また人来ますよね。そこが狙いなんですよ。だから、しっかり取り組んでいただきたいと思いますね。それから、先ほどのガイドのこともそうなんですけど、例えばミュージアムショップもやっぱり売っているものも含めて雰囲気をもっとよくするとか、そこら辺の工夫をしっかりとしてもらいたい。建築家の資料とか彫刻家の資料とか何も売ってないんですよ。お煎餅やあらは売ってて、やっぱりそういったものが売ってないというのはちょっといかなもんかなとこう思います。質の高い美術館経営を目指していただきたい。そこで参考になるのが、島根県の足立美術館なんです。とっても人気が高くてインバウンドも多いと。こういったものを参考にしてもらいたいがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

足立美術館につきましても数年前、個人的に旅行で行ったことがございます。非常に料金が高いにもかかわらずたくさんのお客さんが来ていると。ただ、その中でお話を聞くとやはり満足感の高いというようなお客さんの意見といたしますが、周りで声が聞こえております。そういった先進的な美術館を参考にしながら進めていきたいと思っておりますし、今何よりも大事なものは、やっぱり美術館に求めるものがあるわけなので、そのお客様の求めるニーズに対応した時間の提供といったものに努めてまいらなければならないというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

「雪月花」をデザインした川西さん、たまに糸魚川へお見えになるようなんです。交流観光課長は、川西さんとは面識はありますか。川西さんと会って、列車を生かした観光とか、あるいは美術館、どういうふうな形がいいかという。そういう話、詳しく聞いてみたいとは思いませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

観光を進めていく上でいろんな人の声を聞くというのは、非常に大事だと思いますし、社会の変化が変わっていく中でそういった声が非常に大事だと思います。前向きに、ぜひ会う機会があれば、お会いしてお話を聞きたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

建設課長は、川西さんと面識ありますか。駅を生かしたまちづくりについて詳しく話を聞いてみたいと思いませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

面識はございません。できれば会って、どんな方が、どんなことを言われるのか、お話をお伺いしたいなと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

産業部長、今のような話で地域づくりのプロジェクト進めてみたいけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤産業部長。〔産業部長 斉藤隆一君登壇〕

産業部長（斉藤隆一君）

今、ご提言いただいております方とは、お名前はお聞きをしたことはありますけれども、私も実はお会いしたことはございませんけれども、ネットで拝見しますと会社の名前も株式会社イチバンセンというふうなことで、いわゆる駅にはいろんな出会い、スタートといいますか、始まりがあるというようなところが狙いだったのかなというふうに思っています。やはりまちづくりも駅からスタートするというような、やはりイメージを先生持っておられるのかなと。まだ年齢も40歳ぐらいの非常に若い方でいらっしゃるけれども、インターナショナルなグッドデザイン賞とかすばらしい賞を、駅のデザイン等で受賞されていることは、ネット上では拝見いたしました。そういった方とまた面識を持って、まちづくりができるということは、すばらしいことではないかなというふうに思っております。ぜひまた、部内でもその辺は検討してみたいなと思っております。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

ありがとうございました。

では、時間ないですけど、権現荘について。

これまでの古畑議員、保坂議員、田中議員への答弁では、経営実態、食材仕入れの会計処理は、全くわかりません。異常に高い食材費比率の原因も全くわかりません。全ては、はぐらかし答弁であったと思います。これで市民からの信頼が得られるはずはないと。公務員の誠意、まごころというものを持ってお答えをいただきたいと思うけど、そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

議員の皆様からのご質問に対しては、誠心誠意を持ってお答えをしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

まだ食材の関係がよくわからないんですよ。食材の支払い伝票を見れば、小林支配人の決裁の判こが押してあれば、能生事務所は全額を払ってきたんでしょ。小林支配人と原能生事務所長が結託すれば何でもできるというそういう環境に見てとれるんですよ。そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

食材の支払い等々についての事務手続上、そういった不正のような、そういった内容は、もう一切ないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

そら、あるっていうわけじゃないですか。そこが見えないからちゃんと証拠出して、しっかりと説明してくださいと言ってるわけですよ。まさに不正の温床になってきたんじゃないですか。結果として2人で組んで、糸魚川市民の税金を使い込んだと言われてもしょうがない事態ですよ、これ。どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

いろいろな憶測を持たれた上で、不正があったのではないかというふうにおっしゃっておりますけれども、逆の面で行きますと、どのような状況のもとに田原議員おっしゃっているのか、その点も明らかにしていただいた上で、また話があるかと思うんですけれども、一部の憶測で言われたところについては、なかなかお答えできないというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

だから、そちらのほうでしっかり説明して明らかにしてくれということをやっていないからじゃないですか。もうこれは、百条委員会で明らかにする必要があると思います。

最後に伺いますが、原事務所長と小林支配人は、糸魚川の住民ですか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

小林支配人は、まだ上越のほうに住民票がございます。それで、そちらのほうから通ってきているということですが、私はまだ糸魚川のほうに住民票を残しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原議員。

13番（田原 実君）

じゃあ、原事務所長は、税金払っているけど、小林さんは、糸魚川市に税金払ってないということですね。そういった方が権現荘を私物化して、好き放題やった疑いがあるということは、やっぱり話していただかないと市民に対して申しわけ立たないです。

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩します。

再開を3時30分といたします。

午後3時16分 休憩

午後3時30分 開議

議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝です。

私は、権現荘の課題と対策、今後について、地域医療構想と糸魚川市の医療について、災害対策、学校給食の無料化について、米田市長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。

1、権現荘の課題と対策、今後について。

- (1) 能生自然教育センターから始まった権現荘は、次第に公共的性格がなくなり、一般的な旅館のようになってきている。市が経営する目的をどのように考えているか。
- (2) 今後、直営をやめ指定管理に移行する予定となっているが、基本的に権現荘条例の枠内での経営となる。現在の赤字分を指定管理料に置き換えるだけになりかねないおそれもある。糸魚川市第三セクター等の評価及びあり方に関する報告では、完全民営化まで見据えた抜本的改革を求めているが、現状と指定管理、民営化についてどのように考えているか。
- (3) 経営再建のために民間から支配人を採用して8年目となっているが、赤字の改善ではなく、さらに悪化している。民間的手法とはどのようなものか。目標とする権現荘の管理運営の姿をどのように考えているのか。新支配人採用後の経営をどのように分析し改善を図ってきたか。
- (4) 地方自治体の目的は、住民の福祉の増進を図ることを基本としている。公共的性格がなくなってきている権現荘は民営化するか、引受け手がなければ廃止して温泉センターにすべきではないか。
- (5) 市が旅館を経営する時代ではない。市内には約30軒の旅館・ホテル・民宿がある。市は旅館経営から手を引き、市内の旅館・ホテル・民宿支援にこそ力を入れるべきではないか。

2、地域医療構想と糸魚川市の医療について。

- (1) 地域医療構想は、医療と介護を一体にして、医療費の削減を目的に、国のガイドラインに従って一方的に決めた病床の削減・再編計画を医療機関に強いるものであり、地域医療体制を崩しかねないものである。
新潟県の地域医療構想策定における糸魚川市の状況はどうなっているか。
- (2) 患者数に比べて医師数の少ない医療機関ほど影響を受けるのではないか。当市への影響をどのように捉えているか。
- (3) 総合計画における地域医療体制、救急医療体制充実の取り組みに対する影響はどうか。
- (4) 地域医療構想をどのように捉え対応しているか。地域医療体制の後退につながることは、県、国に率直に改善を求めるべきではないか。

3、災害対策について。

- (1) 8月23日未明を中心に降った大雨により、根知地域を中心に山間部に土砂崩れや床上浸

水等の被害が出たが、被害の状況はどうか。今回の災害の特徴をどのように捉えているか。

(2) どのような対応をされたか。

(3) 局地的豪雨に対する対策について、どのように考えているか。特に土砂崩れ、排水対策については、どのように考えているか。

4、学校給食の無料化について。

(1) 当市では、子ども一貫教育方針を持ち、子育て支援に力を入れているが、それらと併せて学校給食の無料化を検討したらどうか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、引き続き、都市と農村の交流促進及び地域住民の福祉向上を図り、地域振興の拠点施設として運営をしております。

2点目につきましては、所管の委員会に報告できるよう現在、検討を進めているところであります。

3点目につきましては、リニューアル後の昨年8月から1年間の収支は、約400万円の黒字となっております。指定管理者制度へ移行するための環境整備につながったものと考えております。

4点目につきましては、昨年8月以降の日帰り入浴者数については、旧温泉センターを合わせた利用客数より2割以上増加いたしております。

また、収支につきましては、毎年、発生いたしておりました旧温泉センターへの赤字繰り入れ分、約900万円が権現荘の会計の中で補填されております。

5点目につきましては、民間施設と連携をし、地域振興に取り組んでおります。

2番目の1点目につきましては、現在、上越糸魚川圏域の地域医療構想を策定中であり、必要な病床数を確保するよう要望いたしております。

2点目につきましては、地域医療構想の中で医師数が病床数に影響ある内容にはなっておりません。

3点目と4点目につきましては、当市として必要となる取り組みは、総合計画に位置づけており、影響はないものと考えております。地域医療構想は、地域医療を存続するために必要な計画の1つであると認識しており、当市の地域医療を確保する内容となるよう要望してまいります。

3番目の1点目につきましては、行政報告で申し上げたとおりであります。今回の災害の特徴といたしましては、22日の夜半から23日の朝方にかけて短時間の強い雨により、山間部において小規模な土砂崩れ、床上浸水等の被害が多く発生いたしましたものであります。

2点目につきましては、新潟県土砂災害警戒情報の発表を受け、糸魚川市土砂災害警戒本部を設置し、地区への連絡、情報収集、災害現場の確認、警戒活動を初め根知、小滝地区を中心に土砂崩れ等災害拡大防止のための応急処置・避難所開設の準備などを対応いたしました。

3点目につきましては、土砂災害警戒情報や河川防災情報等により避難情報等を発信し、市民の

生命の安全確保に努めてまいりました。

4番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

教育長（田原秀夫君）

新保議員の4番目のご質問にお答えいたします。

市では、さまざまな子育て支援を実施していることから、学校給食の無料化については、現在のところ考えておりません。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

民間的手法による管理運営と経営分析、改善という面で質問したいと思います。

権現荘の会計に関してであります。古畑議員の一般質問に対する答弁で、公会計としては適正に処理されている旨の答弁をされました。柵口温泉事業特別会計としては、適正に会計処理しているという意味だと思えます。

そこで、お聞きします。

公会計の前提として、料金は条例化されているということがあります。明文化されているということでもあります。例えば保育料、園長に保育料減免の権限が与えられているわけではありません。条例で減免について明記されており、担当課においては、各園児の保育料の記録が一定期間残されているはずであります。市内の各種公的施設の使用料減免についても明文化されております。施設長の裁量で減免の額が多くなったり少なくなったりすることはないと思えます。一定であります。公会計の前提として、このように明文化されているということがあると思えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

料金のことですけれども、権現荘におきましては、宿泊料、また日帰り温泉入浴の入浴料は条例できちんと規定されております。規定どおり徴収しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

権現荘の中で条例化されていない部分があります。それも例えば5,000円の部屋の使用料、宿泊だけですね。食事抜きということになった場合、部屋代だけで残りの分は条例化されておられません。

しかし、条例化されていないからといって、では会計にそれが出てこなくてもいいというふうにはならないと思うんです。その中の一部分は出てこなくてもいいという考え方にはならないと思うんです。市内の公的施設使用料で条例に減免が明記されていなくて、施設長あるいは課長の裁量で使用料・利用料が減免されているところがありますか。その減免額が幾らか明記されず、減免後の使用料だけで、また来てくれるかどうかによって減免額が違うところがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

他の公共施設ということで、公民館とか体育施設あるかと思いますが、減免基準の中に特に定めるものということで減免の要綱みたいなのを策定し、それで決裁をとっております。その中では、子供の使用料の減免とかそういったものが記載されております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

要綱があるわけでしょう。市営の施設ということは、支配人のサービスが裁量の範囲といっても市長の責任で行っているということです。能生事務所長も総務部長も知らなかったなどということは、許されないことだと思いますけれども、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

権現荘の料金体系につきましては、先ほど能生事務所長が答えましたように、条例で規定しております宿泊料金、いわゆる部屋代でございますが、そのほかに日帰り入浴の使用料、これが条例に規定してあるものであります。合わせて料理のものについては、いろんなお客様の需要に応じたプランを作成しております。そのプランについては、現場を管理しております支配人、それから能生事務所長のほうで相談をしながらプランをつくって、プランと宿泊料金を組み合わせた形でお客様に提供し、ご利用いただいておりますという状況でありますので、今、新保議員がおっしゃるところとは、組み合わせてるしという形のところで若干ちょっと認識が違うのかなというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

支配人のサービスが裁量の範囲といっても、要するに2万円サービスしましたといっても、その2万円が会計のほうに出てこないということはおかしいんじゃないですか。それは材料費もあるわけでしょ。そん中にそれを調理する人件費もかかっているわけです。そういうことが許されるという、公会計は許されるということなんですか。ことしの3月定例会において、支配人の裁量でサービスが行われていたことを知ったということでありますけども、そのことを黙認して支配人の食材の管理責任ということで裁量権の範囲としたということであります。それがどういう意味を持つのか考えたことがありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

新保議員のご質問は、いろいろなところで話がここまでも出てきておりましたが、利用客のお客様のリピーター、リピート客に対して、さらに誘客の促進のためにおもてなしの一環として飲み物、あるいはお刺身を一部サービスをしたという部分についてかと思っておりますけども、その部分につきましては、これまでのほかの議員の一般質問にもお答えしてきましたように、おもてなし、それからリピート客確保のための販売促進の一環として実施されたということであります。それについては、一定の基準を設けた中で記録を明快にしておくべきであったという点については、内部監査での報告のとおり改善すべき点はあったと思っておりますが、それをもって特に、それを横領したとかというようなお話もごさいますけれども、そういう事実のものではないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

支配人が行った数百円から2万円のサービス内容が示されましたけれども、記憶によればということの一部ということであります。地元糸魚川市の分はありません。これを食材管理の面から見ますと、どこにその食材やお酒等を使ったかわからないということをお悪びれもせずに言っているということであります。どこにその食材、刺身や酒やワインやそういうものを使ったかわからないと。それをわからなくてもこれはいいんだというふうな悪びれもしないで言っていると、そういうことなんですよ。全然、会計上に載ってこないじゃないですか。記録にも載らない、こんな食材の管理ありますか。支配人の裁量の範囲と言っておりますけども、食材をどこに使ったかわからないということを裁量の範囲といって許しているということでありますよ。違いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

これは先日、古畑議員の質問にも答えたとおりでありまして、支配人の裁量でリピーターをふやすためのおもてなしの一環として行ったものでありますけども、やはり今、一定の基準が必要ではなかったかと感じております。また記録もなかったということではありますが、今後これについては、改善するなり、もしくはそういったことをしないような方向で検討したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

次のような4つの条件の中で、数百円から2万円のサービスが行われていたということでもあります。1つは、権現荘の利用料金が条例上、食事なしの部屋代だけの使用料金にしてある。2つ目、棚卸しが年1回しか行われていない。3つ目、賞味期限切れの食材の廃棄伝票がない。4つ目、部門別の管理がなされていないのでわかりにくく、支配人が行ったというサービスを記録として残す仕組みがない。これでは不正を奨励するようなものではないですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

今、おっしゃるように書類に残したり、あるいは基準をつくっておくという点において、事務手続の処理が不備だった点は確かにあったというふうに思っております。その点については、そのような状況ではまずいということで、本年4月以降は改善をし、現在はそれらの基準を明快に設ける中で実施をいたしてきております。

ただ、そのような不備があったというのは事実でございますが、それをもって全て不正だということには捉えておりませんで、事務的な処理の不備の部分があったという点については、今、前段申し上げましたように改善しておりますし、改善すべきだったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

不備があったということだけで済まされるんですか、これは。事務手続がまずいから改善したということだけじゃないでしょ。不正があったかなかったかというのは、調べてみないとわからないわけでしょう。記録が残ってないわけでしょう。ただ、支配人がこう言ってるというだけでないですか。

地方公共団体の新しい公会計の取り組み、これが始まっております。新しかろうが古かろうが、お金の流れが記録されないような会計はあり得ないと、こういうふうに思います。刺身であろうがお酒であろうがフルーツであろうが、支配人がサービスしたと言っていることが事実であるなら、その食材は納品書、請求書に基づいて能生事務所が支払いをしているものであります。お金を支払

って購入した食材がいつの間になくなっていくということである。食材の数量が合わないということになる。支配人がサービスで使ったという証拠もない。市営の旅館というのは、言ってみれば市民の税金で運営されているんですよ。それをわけのわからない支配人のサービスなどと言ってごまかす、そんなことが許されますか。食材原価率が高いということは、購入した食材がどこかへ紛失しているということではないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

支配人のサービスのところは、現物でサービスをしておりまして、金のやりとりはないわけでありますので、そういった点については、確かに食材のほうには影響しますけども、そのほかにつきましても、影響ないものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

何をもとに判断するんですか、サービスしたというものを。何にも残ってないわけでしょ。お客さんに対する納品書なり請求書なり、議員の皆さんもどっかへ出かけたときにホテル・旅館に泊まる。そのとき明細書が出るわけでしょ、請求書。それに基づいて、そこにサービスでこれだけ減額してありますよとか全部出てくるわけでしょ。それに基づいて料金を払うわけです。そこに載ってなくても当たり前だという糸魚川市のそういう考え方なわけでしょ。そんなことはありますか。おかしいんでないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほどもお話しいたしましたけれども、支配人のほうではリピーター客の確保のために、リピート前にもおいでになって、何回も権現荘の利用をいただいているというお客様に、さらにご利用いただきたいというような視点を持ちながら、そのようなお客様に品物でサービスをしたということでもあります。経理上ではどうなるかということ、食材のロスというような形で経理上は処理されていることになっております。その辺を明らかに、通常のロス分と今回の分とわかるようにすべきだったという点については、先ほど申し上げましたとおり事務手続上、不備な点があったというふうには感じておりますけれども、その点について改善をし、取り組みをしておるところでありますけれども、今申し上げましたような形でやったというところがございますので、新保議員がおっしゃるような、それをもって明らかな不正だというふうには捉えていないところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

不正があったかなかったかというのは、それは調べてから後のことですよ。今それがわからない仕組みになってるということを言ってるわけです。食材のロスというふうに言われましたけども、ロスであるかないかというの、どういうふうに判断するんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

1つの品物、例えばキュウリ1本だといたしますけれども、わかりやすいところからそう話しますけれども、その部分でもう使いものにならない部分とかそういうものは、やっぱりカットしていくわけです。最終的に食材の管理というのは、使った分とお客様に出した分とそのような形で在庫管理を重さでやっております。重さを最終的に金額で按分する中で食材のロスというような形に出てまいります。

したがって、その中では、今言うサービスで出された分もロスという形に経理上は出てまいりますけれども、それを内部監査の中では金額に換算して調査をさせていただいたところであります。これについては、支配人の記憶の中でそのような形で整理をし、聞き取りをする中で確認をさせていただいたところでありまして、これについて特に権現荘のリニューアル後、お客様を余計に今後とも誘客に努めていきたいということで、リニューアル後、特にこれをリピーター客の皆さんに対応したというようなことで聞いておりまして、その状況を踏まえて食材管理の原価率が高目になったという部分があったのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

糸魚川中学校、糸魚川東中学校給食会計の不正経理事件、能生学校給食センターの不正経理事件などの不祥事で糸魚川市職員不祥事防止のための行動指針、不祥事防止のためのチェックリスト等がつくられたんではないですか。もう一度、読み直したらどうですか。軽微なものを防いでいれば重大事件にはつながらないということを忘れたんですか。公金ですよ。市が経営する旅館のお金は1万円、1万円でも大きい金額ですけども、二、三十万円なら大した金額でないということじゃないんですよ。実際には、表に出たものは、大体二、三十万ぐらいのもんですけども、それが糸魚川市内のものは全然ないわけですよ。どこでどう使われたかわからない、そういうのが当然だと言ってるんですよ、皆さんは。糸魚川市はそういうのあっても当然だと、これは公会計なんだとそういう意味のことを言われてるんです。それでいいんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

静粛に。

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

このことにつきましては、内部監査の報告の中で詳しく出ておりますけども、ちょうしを1本とか2本とかサービスをしたということであります。

ただ、このサービスにつきまして現金のやりとりはございませんので、そういった不正があるものとは思ってないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

例えばワインを出したというのもありましたよね。じゃあそのワインは、食材のロスですか。ワインは購入したわけでしょ。購入したものが使われたというものがない。どこにも出てこない。そんな会計のやり方ってありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

食材につきましては、購入したときの伝票等はきちんとありますけども、あとは棚卸しまで、その辺の数字的なものはつかんでいなかったということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

現状は、これは前に指摘されたことですが、現状は民間会社と同様の経理処理を実施するとともに部門別の管理、宿泊部門、温浴部門、飲食部門、売店、こういう部門、こういう部門別管理を実施し、効率化を図るべきであるという糸魚川市第三セクター等経営検討委員会の指摘が生かされていません。平成22年だったと思いますけども、この糸魚川市第三セクター等経営検討委員会が指摘したことです。今の状況では、ごまかそうと思えば幾らでもごまかせる。これが権現荘の現状ではないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

平成22年3月の糸魚川市第三セクター等の評価及びあり方に関する報告書の中で、権現荘につきましても報告を頂戴しております。当時、権現荘は第三セクターではなかったんですけども、他

の第三セクターと同様に市の直営という施設でありましたけども、その辺につきまして専門家から評価を頂戴したいということで、特別に評価をしてもらったところであります。

ただ、その中に部門別という表現は、私ちょっと今、記憶にないんですけども、3館体制をやめて施設規模を縮小すべきだというご提言は受けているところであります。それは、3館というのは、権現荘と温泉センターと、それから交流センター、この3館体制はやめて、施設規模を縮小すべきであるというような提言は、課題と対策の中で頂戴をしているということであります。それにつきましては、3館体制をなくしたことに、だんだんなくしてきたということであります。この報告書に基づきながら実施をしてきたというものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

もう一回、読み直してもらいたいと思います。

支配人のサービス等と言っている問題は、食材代金の支払いはしているけれども、その食材がどこへ行ったのか経理上の数字として出さなくてもいいんだと、適当に出しておけばいいんだと、これが公会計なんだと言い張ってるということなんですよ。金額の大小の問題ではありません。こんなことが許されるのであれば権現荘の会計のみならず、糸魚川市の会計は、いいかげんなことをしても許されるんだということになりませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

物品の管理は、適正に実施をされております。権現荘においては、食材という部分について、食材の原価率が非常に高かったということが、平成27年度の決算の見込みの中でお話がされたとおりでありますけれども、それをもって全て不正ではないかというふうに捉える状況ではないというふうに思っております。

ただ、その中で1つの要因で品物を、リピーター客の確保、おもてなしのために支配人のほうでサービスをリピーター客の皆さんにされたという状況を調査の上、皆様方に明らかにさせていただいたということであります。これをもって全て糸魚川市がこのような形でやっているのではないかというふうに思われる点については、そういうことではございません。権現荘においての部分において、業務の特殊性といいますか、そういうような状況の中で支配人が現場で判断されて、リピーター客の誘客活動のために対応してきたということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

不正であったかなかったかというのは、調べなきゃわからないわけでしょ。お金の出入りがしっかりするような仕組みにしてなかったと、それではだめでないですかと言ってるわけですよ。この

問題が明らかになった時点で、支配人の裁量とかいうそういうふうな、うやむやにしないで正すことをしなかったのは、これは誤りです。公の旅館にふさわしいサービスのあり方を考えるべきだと思います。権現荘レベルの旅館であっても請求書にサービス内容を記載することは広く行っていることだと思いますよ、いかがですか。なぜそういうことをしなかったんですか。そうすれば歳出にも記載できるし、金の流れが明らかになるじゃないですか。サービスだってプラスマイナスゼロだから掲載しなくてもいいということじゃ、全然、金の流れがわからないじゃないですか。購入するのに金は払ったけれども、出ていくのが何にも記載されていないと、そんな管理のやり方ありますか。これが公会計なんだと言い張ってるんじゃないですか。そんなことあるわけじゃないじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

公会計の中で、そういった出金伝票がないということでおっしゃってます。これは21年に今の支配人が来てからそういうふうになったということではなくて、もう昭和63年のときから公会計で、町の当時やってたときからこのやり方であったというふうに、私は思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

なぜこういうふうな問題が、権現荘の経営ということに注目が集まって検討がされてきたかといえば、大きな赤字が出てきたからなわけでしょ。市の直営で市の職員がそこに派遣されて経営していたときよりも赤字の額が非常に大きくなったと。今の支配人の一番最初の就任した平成21年、最初が1,500万円の赤字、その翌年が3,900万、約4,000万の赤字、3年目が1,850万の赤字、こういうのがずっと続いてきたわけでしょ。平成27年度は約2,400万円の赤字、その前が約1,600万円の赤字、こういう中で一体どういう経営をしてるんだということから出てきたわけですよ。昭和63年からこういうやり方がやとったからこれでいいんだというわけにはいかないわけでしょ。先ほど副市長から言われた平成22年には、糸魚川市第三セクター等経営検討委員会から指摘されて、そのほかのところにも頼んで経営分析しているのと改善する点、提案されたわけじゃないですか。何でそういうことを変えてこなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

支配人が就任する前、平成18年、19年、20年と赤字が続きまして、そのような状況を民間的な手法の中で改善していきたいということで、平成21年に現在の小林支配人を登用し、経営改善に努めてきたところであります。

ただ、前段のいろいろな、支配人が就任するまでの流れの中で、すぐにはなかなか効果があらわれなかったということで、21年から23年までは、新保議員がおっしゃったような赤字でありました。平成24年、平成25年とわずかでありますけども黒字ということで、黒字の強化体制を出してきたような状況です。それで、先ほど来、話があります平成22年のコンサルの経営分析の中で、この施設については指定管理、あるいは民営化という方向ですべきであるというような提言もいただいております、そのような状況を踏まえて、ここの施設を指定管理にしようということで平成25年度に現在のようにリニューアルをし、リニューアル後の指定管理にしていきたいということで進めてまいったところであります。そういうような状況の中で、現在のこの施設を指定管理に移行させていきたいということで取り組みをし、2年間かけてリニューアルをしてきた状況であります。

先ほど来、在庫管理の話もありますけども、在庫管理については、特に平成27年においては、非常にリニューアル後、お客さんが多くて忙しいというような状況もあって、そんなことは理由にならないんですけれども、そのような状況もあって、特に定期的な在庫管理が不十分で結果的に皆様方に申し上げているような状況になったと。年度末での1回の棚卸しになったというような状況でありまして、その状況については、反省すべき点でありますし、改善しなければならないということで取り組みをいたしております。その辺の状況を踏まえて、非常に在庫管理が不十分であって、結果として誤解を招くような部分があったというふうには認識をしております。その点については、申しわけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

在庫管理の問題じゃないでしょ、仕組みの問題でしょ。どこにどうお金を使ったか、それが記録に残らないという、そういうやり方がおかしいんでないかと言ってるわけですよ。糸魚川市第三セクター等経営検討委員会から民間会社と同様の経理処理を実施するとともに部門別管理を実施し、効率化を図るべきだと提言されたけれども、そのようには改善してこなかったと。民間会社と同様の経理処理に改善しないばかりか公会計の精神に反する処理が、支配人の裁量の名のもとで行われていたんではありませんか。民間手法と、今やっているような手法が、これが民間手法ですか。民間ではそういうことがまかり通っているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

まず、支配人の行った行為、サービス行為が不正かどうかという点については、やはりリピーターを確保するために行った行為という中では、不正とは捉えておりません。

ただ、そういう中で、会計上、じゃあそれが適正かどうかという点を考えると、やはりその当時、一定の基準があるべきだったと思いますし、そういった記録というのは、残すべきだったというこ

とで所管の委員会でも、たしか答弁したと思うんですけども、当然、基準はつくるべきでありますし、そういった記録が残るように販売促進費みたいな形で項目を設けて歳入に振りかえするような、そういった会計処理を今後するべきというふうにしておりますし、できればやはりこういった疑念を持たれるような行為ということであれば、やめる方向で進めるべきというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

不正が行われたかどうかという、その前の前段の問題でしょ。そういうことを判断できる仕組みがなかったと、そこが問題なんですよ。それがあれば一目瞭然でないですか。支出と収入とここにこういうふうにいるんな食材を購入した、あるいは働いている人たちがどれだけ残業代出した。この残業代が適正なものかどうか判断する。そういうものがきちんとあれば、収入と支出をきちんと見ることができれば、不正が行われるということはないわけです。だけどもこの場合ない。ないということは、不正が行われたかもしれない、そういう疑問がずっと残るわけでしょ。じゃあ不正が行われない、じゃあその証拠を出してください。証拠は何にもないわけでしょ。何にもないけども不正はないと言ってるだけの問題でしょ。支配人がそう言っていると、ただそんでしかないわけですよ。仕組みがないからだめなんで、そういう仕組みをつくらなかったその責任はどういうんだと。はっきりした時点で、3月で明らかになったたらそんなときに、なぜそれをやめさせてきちんとした仕組みをつくらなかったのか。金の動きがはっきりわかるような仕組みをつくるのが行政の務めでないですか。それを何て言うんでしょうかね、支配人をかばうような、そういうことでずっと一貫してやってきたからおかしい具合になるわけですよ。私は、柵口温泉権現荘の管理運営には不明な点が多いと、そのために百条委員会の徹底究明が必要というふうに考えます。

支配人の宿泊の点でお聞きします。321号室は、1泊食事なし料金5,000円プラス加算使用料5,100円、計1万100円の特別室であります。このほかに食事料金とか入浴の関係の税金とかその他加わります。小林支配人は、この321号室に夏は月20日以上泊まっていたと、宿泊客の少ないときは、月10日から十数日泊まっていたと私の質問に答弁しております。客室として利用しているれっきとした特別室であります。騒音とか振動とかあるということではありますが、それでも客室として提供してるそういう部屋です。支配人から宿泊料を徴収しないのは条例違反じゃないですか。それとも職員が客室に泊まるのを無料としているんですか。そんな内規はないはずですが。市長が特別に無料で泊まるのを許可したんですか、お答えください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

支配人が宿直ということで、一定の人数の宿泊者がいる場合、宿直のシルバー人材センターの委託の人がいるわけですけども、大勢の場合にお客の安全確保の視点から、責任者として宿直を自

分みずから行っていた。そのときにその部屋を使ったということでもあります。

したがって、自分の都合で泊まったということではなくて、責任者として宿直を務めなければならない。それを自分みずからが行ったという中で部屋の使用があったというふうに思っておりまして、そういう状況の中でということなんで、業務の一環であったというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

業務の一環じゃないでしょう。後からそういうふうにしたんでないですか。減免は市長の権限ですよ。だから、市長がこれをそれでいいと許可すれば減免という、あるいはそういうことも無料で泊まるということも可能かもわかりませんが、全然、市長も知らない、知ってるかどうかわかりませんが、恐らく知らなかったんだろうと思います。そういう状況の中で、要するに、支配人が自分の判断で勝手にやってたと、そういうことを後づけで、それは業務の一環だと言ってるだけとしか聞こえません。

古畑議員の一般質問のやりとりの中で、板長さんが、まだ住むところが決まっていないうちに古い本館に泊まっていたと。宿泊料として月2万円払っていたということですが、支配人が自分の判断で、多いときは1カ月のほとんどを特別室に泊まっていたのを無料にしているのと、先ほどの板長さんの2万円払っていたのと、どちらが公会計としてふさわしいやり方だと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

料理長が、自分の何と言いますか家がまだ見つからない段階のときのことについては、私もちょっとその辺については不明でありますけども、今回、支配人が宿泊者の安全を確保するために宿直業務の一環として泊まっていたということにつきましては、減免の対象とかそういうものではなくて、業務として使用してたものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

宿直体制強化を迫られて何かそういうことで協議されていたんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

能生事務所長（原 郁夫君）

正式な宿直業務は、この7月以降、労働基準監督署と協議する中で、新たに正式に設けていきたいということで制度を整備してるということですが、それ以前は、先ほど新保議員がおっしゃった

支配人が自分の基準の中で5部屋ないしは10人以上のお客が泊まったときに安全を確保するために自分が泊まるんだということで、自宅にも帰れずその部屋を使って泊まっていたということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

私は、支配人からは宿泊代を条例に基づいて徴収すべきだと考えます。この問題での糸魚川市の対応は、余りにもいいかげん過ぎます。

まだ質問ありますんで、この問題はこのぐらいにしておきますけども、こういう赤字を出しても、2,000万、3,000万赤字を出しても小林支配人は頑張っている、民間での経験を生かして頑張っているというふうに答弁されてきました。この感覚ですと指定管理になっても今までと余り変わらないんじゃないかと危惧するものであります。2,000万の赤字を出しても4,000万の赤字を出しても頑張っているということにならないか、交流人口の拡大とか地域振興と言えは通るとお考えなのかどうかお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

リニューアルしました昨年8月からの1年間の収支につきましては、約400万円の黒字となっております。大変これは不十分でありますけども、それでも黒字のほうへ行った、転換をしたというものであります。また、この中には旧温泉センターのところへ毎年、赤字の繰り入れということで約900万ほど投入をしてましたけども、それが今、市のほうからは一般会計から支出をしておりません。

したがって、この900万も権現荘の会計の中で補填をされていると。ざっくり合計するわけにはいきませんが、仮に合計するとしたら1,300万ぐらいの改善をしているという状況であります。そういったことで黒字のほうへ転換をしましたので、今後、指定管理のほうへ向けて取り組みますけども、指定管理料は払わない方向で検討したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

リニューアル後は、お客さんがふえるのは当たり前と、一、二年はですね。それはどこでも一緒だと思います。ですが、この権現荘問題もう少しはっきりさせておかないと、ほかの形態に移ってもこれを引きずってしまうと、私はそのように思います。

災害対策に移ります。

今回の災害で被害の多かった根知地域について伺いたいと思います。

大糸線根知駅周辺の被害に関連して伺いますが、県道川尻小谷系魚川線のJR大糸線から国道までの間、そこから根小屋の駅、根知駅、そこまでは下り勾配になっております。それで、根知谷の信号までの間、線路から。根小屋新道線、根知の駅前の通りですが、その両側に側溝あります。この側溝が一貫した考え方のもとでつくられていないと。その工事ごとにつくられて、駅のほうに向かって逆勾配になっている。ところが姫川の上流側からいえば、そっちのほうからも勾配もある。そういうところで1つは駅前の側溝は砂がいっぱいになってます。国道側のうちの前の側溝は行きどまりです。行きどまりで逆のほうに戻って下のほうに、田んぼのほうに落ちてるという格好になってます。そういう落ちてるのが数本あります。こういう側溝がばらばらにつくられているって、これは整備し直す必要があるんでないかと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

現地のほう今現在どちらのほうに流れてるかというのは、ちょっとすみません、私のほうで把握しておりませんが、今後、現地を確認した中で全体的に合理的な流れをしていないのであれば、どういった形が合理的なのか、改修すべきは改修すべきというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私が住んでるところでございますと、私が一番、知っとると捉えておるわけでございますので、お答えをさせていただきます。

ご承知のとおり、今、市道となっておりますが、以前は国道148号でありました。そういう中で側溝が整備されてまいっておるんですが、その河川勾配に逆らって上流に流れている環境もあります。これはどういうことかといいますと、やはり警備用水槽に水を送るための水路にも使ってた関係もございます。そういう中で部分的には小滝のほうに向かう水路もございます。そういう中で今回は、特に非常に集中的な豪雨によって越水した部分もございますので、その辺は調査する中でどういうふうに考えていけばいいのかというのは、これから検討しなくちゃいけないと思っておりますが、やはり水路は水路、やはり警備用防火水路には、どのようにしていくかというのもやっぱり整理しなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

この側溝も今回うちのほうに排水が流れ込むという原因にもなってるんで、ぜひ改善していただ

きたいと思います。

それと、根小屋新道線の両側に住宅があるうち148号側、その下は田んぼ、水田になってますけども、その住宅の裏、田んぼの側ですよ、住宅の下のほうに地下のようになってる家がいっぱいありますけど、その地下室、物置、作業場と使っているそういうところに泥水が流れ込んで被害が出たと。仕事の機械が被害を受けた方もいらっしゃいます。この排水路も姫川に流れ込む空沢排水樋管までの間、流れがよくなるように整備する必要があるんじゃないか。クランクのようになっているところもあれば、非常にここも流れが悪いと、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

その部分については、現地も確認しておりますけれども、鋭角的な形で水路が曲がっておったりとかという状況もございます。現地においてどのような形で整備し直せば水利的にきちりと流れるような形になるのか、土地の問題もございますけれども、検討させていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

これやらないと、後で同じこと起きますよ。根小屋の空沢ですが、今回もあふれて被害が出ておりました。太い流木が流れてきて、つかえてあふれて被害が出るということもあるということです。上流にこういう太い流木、これをとめるものがつくれないか、そういう工事ができないかということと、空沢そのものも計画的に整備する必要があるんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々、根知に住んでおるわけでございますが、ご承知のとおり8.9、昭和44年、そして、その後には平成7年の7.11、そういったときにもそういった状況が起きてなかったわけでありませぬ。

しかし、このたびの集中豪雨によって生じておる部分がございます。一つずつ捉えていけば非常に問題も課題もあるのかもしれませんが、そういったところを捉えながら、これは根小屋だけではございません。根知の駅には起きていますし、小滝にも及んでございませぬので、その辺はしっかり調査をしながら、起きないように整備の仕方、復旧工事をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

上横でも土砂崩れがありましたが、そのためにスキー場を通る迂回路を通行しておりますが、雪が降ると通れなくなります。道路は雪が降る前に確実に復旧させる必要があると思いますが、どのようなようになっておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

お答えします。

雪が降る前に復旧するように、今、計画しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

確実にやってもらいたいと思います。

上横集落の一番上に県営地すべり対策事業として水抜きボーリング工事を行った場所があります。工事箇所は大丈夫ですけども、工事の切れ目から下が崩れております。復旧計画はどうなっているか。

また、県の水抜き工事の排水枡の下が今回の豪雨で掘り下げられて、民家の岸のほうまで広がっていくおそれがあります。広がらないような対策が必要と思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今お話しいただいたところは、農地の地すべり指定地になっております。今回お話しのような被害は出ておまして、先般、県の糸魚川地域振興局と現地を見ております。上部のほうは、側溝が入るとるんですけども、流末のほうは土側溝であったり、集水枡のところであふれたりということでございまして、県のほうは要望箇所として捉えていただいておりますけども、箇所が多いもんですから、今回、優先順位を決めながら事業化していきたいというお考えをお聞きしとるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ぜひ、困らないようにしていただきたいと思います。今回の災害に対し、被害に対する補助とい

うのはどういうふうになってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

見辺建設課長。〔建設課長 見辺 太君登壇〕

建設課長（見辺 太君）

建設課における災害復旧事業につきましては、公共債、補助事業として受けるものについて6件ございます。それ以外については、単独債ということでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今回の豪雨災で補正の追加をお願いする予定にさせられておりますけども、総額の約7割ぐらいが商工農林水産課に影響してまいります。特に、農地の復旧につきましては、地元負担が生じてまいります。その地元負担については、地元のほうとしっかりと話す中で、先般ほかの議員さんからのお話がございましたけども、基盤整備の負担金、それから、施設の負担金等で高齢化し、大変になってきているという状況がございます。それらも含めまして検討せんらん事項だというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（倉又 稔君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

被害を受けた方が困らないように、ぜひ補助を検討していただきたいと思います。

終わります。

議長（倉又 稔君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後4時36分 延会

+

+

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+